

国語国文学科専門科目（平成29年度入学生用）

	科目 コード	授業 コード	科目名	単位	時数	学年	開講	担当教員	教職 必修	概要	開放			
基幹 科目	10010		国文学概論	②	30	1・2	前期	佐々木紀一	○	古典 近現代	教養 教養 教養 教養			
	10020		国語学概論	②	30	1・2	前期	高橋 永行	○					
	10040		国文学史一	2	30	1・2	後期	岩原 真代	○					
	10050		国文学史二	2	30	1・2	後期	馬場 重行	○					
基礎 科目	共通		国文学基礎演習一	4	60	1	通年	齋藤 奈美 佐々木紀一 岡 英里奈 馬場 重行 山本 淳 高橋 永行	④	開講せず				
			国文学基礎演習二		60	1	通年							
			国文学基礎演習三		60	1	通年							
			国文学基礎演習四		60	1	通年							
			国文学基礎演習五		60	1	通年							
			国語学基礎演習一		60	1	通年							
			国語学基礎演習二		60	1	通年							
		10190	10191		国語表現法（金曜Ⅱ限）	4	60					1・2	通年	高橋 永行 山本 淳
	10190	10192	国語表現法（月曜Ⅳ限）											
	国文学	10210		国文学講読一	2	30	1・2	前期	岩原 真代 齋藤 奈美 佐々木紀一 岡 英里奈 岡 英里奈 岩原 真代 齋藤 奈美 佐々木紀一 岡 英里奈 岡 英里奈	古典 古典 古典 近現代 近現代 古典 古典 古典 近現代 近現代				
		10220		国文学講読二		30	1・2	前期						
		10230		国文学講読三		30	1・2	前期						
		10240		国文学講読四		30	1・2	前期						
		10250		国文学講読五		30	1・2	後期						
		10260		国文学講読六		30	1・2	後期						
		10270		国文学講読七		30	1・2	後期						
		10280		国文学講読八		30	1・2	後期						
		10290		国文学講読九		30	1・2	後期						
		10300		国文学講読十		30	1・2	後期						
		10410		国文学特講一		2	30	1・2				前期	岩原 真代 岩原 真代 佐々木紀一 梅津 保一 馬場 重行	開講せず
10420			国文学特講二	30			1・2	後期						
10430		国文学特講三	30	1・2	後期									
10440		国文学特講四	30	1・2	前期									
10450		国文学特講五	30	1・2	前期									
		国文学特講六	30	1・2	後期									
国語学	10510		国語学講読一	2	30	1・2	前期	山本 淳 高橋 永行 山本 淳 高橋 永行 山本 淳 田中 宣廣	○ ○	8・9月開講				
	10520		国語学講読二		30	1・2	前期							
	10530		国語学講読三		30	1・2	後期							
	10540		国語学講読四		30	1・2	後期							
	10550		国語学特講		30	1・2	前期							
	10560		日本語文書・表現プログラム		30	1・2	集中							
漢文学	10600		漢文学概説	2	30	1・2	前期	渡部東一郎	○ ○					
	10610		漢文学講読一		30	1・2	前期							
	10620		漢文学講読二		30	1・2	後期							
	10650		漢文学特講		30	1・2	後期							
	10661		漢文学専門ゼミ二		30	2	前期							
展開 科目	共通		国文学演習一	4	60	2	通年	岩原 真代 石黒 志保 佐々木紀一 岡 英里奈 馬場 重行 山本 淳 高橋 永行 北口己津子 村瀬 桃子	④	(応用) 開講せず (応用) (応用) (応用) (応用) (応用) (応用) (応用) (応用)				
		10720			国文学演習二	60	2					通年		
		10730			国文学演習三	60	2					通年		
		10740			国文学演習四	60	2					通年		
		10741			国文学演習五	60	2					通年		
		10750			国語学演習一	60	2					通年		
		10760			国語学演習二	60	2					通年		
		10780			文献学演習	60	2					通年		
		10790			教育文化論演習	60	2					通年		
		関連 科目	共通		10810	書道一	4					60	1・2	通年
	書道二			60	1・2	通年								
10910	伝統文化論			2	30	1・2	前期	岩原 真代 鈴木 眞弓		8・9月開講	教養 教養			
10920	有職故実			2	30	1・2	集中							
10930	民俗学概説			2	30	1・2	後期	岩鼻 通明	[日]「文献情報学」で相 互乗入読替	教養				
10940	書誌学			2	30	1・2	前期	北口己津子						
10950	山形の文学			2	30	1・2	前期	梅津 保一	[日]は専門単位[英・社]は 教養単位	教養				
10960	東洋思想			2	30	1・2	前期	小野 卓也						
10970	現代社会と教育問題	2	30	1・2	後期	村瀬 桃子	教養							
11010	卒業研究	4		2										

(注) ○数字は必修単位、)○数字は選択必修単位

「授業コード」がある場合、同じ科目名の授業の中から1つのみ選択できる  
教職科目については、教職必修欄の科目を履修することで条件を満たす

国語国文学科専門科目（平成30年度入学生用）

	科目 コード	授業 コード	科目名	単位	時数	学年	開講	担当教員	教職 必修	概要	開放	
基幹 科目	10010		国文学概論	②	30	1・2	前期	佐々木紀一	○	古典 近現代	教養 教養 教養 教養	
	10020		国語学概論	②	30	1・2	前期	高橋 永行	○			
	10040		国文学史一	2	30	1・2	後期	岩原 真代	○			
	10050		国文学史二	2	30	1・2	後期	馬場 重行	○			
基礎 科目	共通		国文学基礎演習一	4	60	1	通年	齋藤 奈美 佐々木紀一 岡 英里奈 馬場 重行 山本 淳 高橋 永行	④	開講せず		
		10120	国文学基礎演習二	4	60	1	通年					
		10130	国文学基礎演習三	4	60	1	通年					
		10140	国文学基礎演習四	4	60	1	通年					
		10150	国文学基礎演習五	4	60	1	通年					
		10160	国語学基礎演習一	4	60	1	通年					
		10170	国語学基礎演習二	4	60	1	通年					
	10190	10191	国語表現法（金曜Ⅱ限）	4	60	1・2	通年	高橋 永行 山本 淳	④	いずれか一つ履修		
	10190	10192	国語表現法（月曜Ⅳ限）									
	国文学	10210		国文学講読一	2	30	1・2	前期	岩原 真代	④	古典 古典 古典 近現代 近現代 古典 古典 近現代 近現代	
		10220		国文学講読二	2	30	1・2	前期	齋藤 奈美			
		10230		国文学講読三	2	30	1・2	前期	佐々木紀一			
		10240		国文学講読四	2	30	1・2	前期	岡 英里奈			
		10250		国文学講読五	2	30	1・2	後期	岡 英里奈			
		10260		国文学講読六	2	30	1・2	後期	岩原 真代			
		10270		国文学講読七	2	30	1・2	後期	齋藤 奈美			
		10280		国文学講読八	2	30	1・2	後期	佐々木紀一			
		10290		国文学講読九	2	30	1・2	後期	岡 英里奈			
		10300		国文学講読十	2	30	1・2	後期	岡 英里奈			
国語学	10410		国文学特講一	2	30	1・2	前期	岩原 真代	②			
	10420		国文学特講二	2	30	1・2	後期	岩原 真代				
	10430		国文学特講三	2	30	1・2	後期	佐々木紀一				
	10440		国文学特講四	2	30	1・2	前期	梅津 保一				
	10450		国文学特講五	2	30	1・2	前期	馬場 重行				
漢文学	10510		国語学講読一	2	30	1・2	前期	山本 淳	④	8・9月開講		
	10520		国語学講読二	2	30	1・2	前期	高橋 永行				
	10530		国語学講読三	2	30	1・2	後期	山本 淳				
	10540		国語学講読四	2	30	1・2	後期	高橋 永行				
	10550		国語学特講	2	30	1・2	前期	山本 淳				
	10560		日本語文書・表現プログラム	2	30	1・2	集中	田中 宣廣				
展開 科目	共通	10600	漢文学概説	2	30	1・2	前期	渡部東一郎	②			
		10610	漢文学講読一	2	30	1・2	前期	渡部東一郎				
		10620	漢文学講読二	2	30	1・2	後期	渡部東一郎				
		10650	漢文学特講	2	30	1・2	後期	渡部東一郎				
		10660	漢文学専門ゼミ一 漢文学専門ゼミ二	2 2	30 30	1 2	後期 前期	渡部東一郎 渡部東一郎				
関連 科目	共通		国文学演習一	4	60	2	通年	岩原 真代 石黒 志保 佐々木紀一 岡 英里奈 馬場 重行 山本 淳 高橋 永行 北口己津子 村瀬 桃子	④	(応用) (応用) (応用) (応用) (応用) (応用) (応用) (応用)		
			国文学演習二	4	60	2	通年					
			国文学演習三	4	60	2	通年					
			国文学演習四	4	60	2	通年					
			国文学演習五	4	60	2	通年					
			国語学演習一	4	60	2	通年					
			国語学演習二	4	60	2	通年					
			文献学演習	4	60	2	通年					
			教育文化論演習	4	60	2	通年					
			10800	10801	書道（木曜Ⅲ限）	4	60					1・2
	10800	10802	書道（木曜Ⅳ限）	4	60	1・2	通年	我彦 芳柳				
	10910		伝統文化論	2	30	1・2	前期	岩原 真代	④	8・9月開講 日本史と合同 [可]「文献情報学」で相互兼任 [日]は専門単位[英・社]は 教養単位	教養 教養 教養 教養 教養	
	10920		有職故実	2	30	1・2	集中	鈴木 眞弓				
	10930		民俗学概説	2	30	1・2	後期	岩鼻 通明				
	10940		書誌学	2	30	1・2	前期	北口己津子				
	10950		山形の文学	2	30	1・2	前期	梅津 保一				
	10960		東洋思想	2	30	1・2	前期	小野 卓也				
	10970		現代社会と教育問題	2	30	1・2	後期	村瀬 桃子				
			卒業研究	4		2						

(注) ○数字は必修単位、)○数字は選択必修単位  
「授業コード」がある場合、同じ科目名の授業の中から1つのみ選択できる  
教職科目については、教職必修欄の科目を履修することで条件を満たす

講義科目名称：国文学概論（10010）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	2	必修・教職必修
担当教員			
佐々木 紀一			
開放（教養）			

授業のテーマ及び到達目標	国文学概論の対象は限りなく広く、読み方も複雑を極めるが、文学の構成、成立、技法、批評法について、全般的に理解を深める。
授業計画	<p>第1回 今、そしてこれからの世界で、文学を読む意味（「有益かつ快樂」？）</p> <p>第2回 文学と文学以外（文学は言語の特別な構築物？）</p> <p>第3回 国文学の対象（範囲と価値）</p> <p>第4回 国文学の諸ジャンル</p> <p>第5回 国文学の成立（古典）</p> <p>第6回 国文学の成立（近代文学 - 作家論について）</p> <p>第7回 作家なんて（ ）に入れろ！（1）ロシア・フォルマリズム、ニュークリティシズム、神話批評</p> <p>第8回 作家なんて（ ）に入れろ！（2）受容理論、解釈学</p> <p>第9回 作家なんて（ ）に入れろ！（3）記号論、脱構築</p> <p>第10回 作家なんて（ ）に入れろ！（4）精神分析批評</p> <p>第11回 全てを歴史化しろ！（1）ポスト・コロニアル、フェミニズム批評</p> <p>第12回 全てを歴史化しろ！（2）ニューヒストリシズム</p> <p>第13回 文学の技巧（1）ロッジ『小説の技巧』から（1）</p> <p>第14回 文学の技巧（2）ロッジ『小説の技巧』から（2）</p> <p>第15回 再び（国）文学を読む意味</p>
授業概要	前半は文学を読む意味、文学の対象（範囲）、価値、成立について、後半は批評の理論、技巧について学びます。
テキスト	特になし
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	古典文学者ですので、古典を中心に取り上げます。
評価方法	レポート（100%）
参考文献	廣野由美子「批評理論入門ー『フランケンシュタイン』解剖講義」（中公新書） D. ロッジ『小説の技巧』が面白く、分かりやすいです。
備考	

講義科目名称：国語学概論（10020）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	2	必修・教職必修
担当教員			
高橋 永行			
開放（教養）			

授業のテーマ及び到達目標	国語学は、日本語ということばそのものを研究対象とする学問分野です。この授業はその入門的性格をもつもので、現代日本語の構造や体系についての概要を学びます。		
授業計画	1	言語研究とその分野（導入） 言語の機能	
	2	現代生活と日本語 1 ことばの位相	
	3	現代生活と日本語 2 現実のことばと仮想のことば 方言	
	4	文字表記 1 文字の機能と分類 漢字の成り立ち	
	5	文字表記 2 かなとカタカナ 史的変遷	
	6	文字表記 3 ローマ字の歴史と用法	
	7	文字表記 4 標準字体 国語政策	
	8	語彙 1 語彙とは何か 体系と量	
	9	語彙 2 語彙の出自と分類	
	10	語彙 3 語の誕生と歴史	
	11	文法 日本語の構造	
	12	日本語の位置 世界の言語と日本語の違い	
	13	日本語の系統 言語系統表	
	14	類型論から見た日本語	
	15	まとめと試験	
授業概要	今年は、日本語という言語の個性、文字表記、語彙、方言、系統を取り上げて講義します。		
テキスト	『図解日本語』三省堂 2, 000円＋税 さわらび会購買部で求めてください。		
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	まずは「ことばに対する素朴な疑問」を持つことから始めましょう。テキストと同様にことばに関する新聞報道も取り上げます。できるだけ旬の話題も提供するようにします。		
評価方法	試験90%、授業への参加度10%		
参考文献			
備考			

講義科目名称：国文学史一（10040）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	2	選択必修・教職必修
担当教員			
岩原 真代			
開放（教養）			

授業のテーマ及び到達目標	上代から近世にかけての文学史を概観しながら、名作・名文を読解する。国文学史を通して、日本人の精神史をたどり、各作品の主題と意義を理解する。
授業計画	<p>第1回 国文学史概説</p> <p>第2回 上代文学（古事記）</p> <p>第3回 上代文学（風土記・日本書紀）</p> <p>第4回 上代文学（萬葉集・懷風藻その他）</p> <p>第5回 中古文学（和歌・歌謡）</p> <p>第6回 中古文学（後期物語・説話）</p> <p>第7回 中古文学（物語）</p> <p>第8回 中古文学（歴史物語）</p> <p>第9回 中古文学（説話）</p> <p>第10回 中世文学（日記・韻文）</p> <p>第11回 中世文学（漢詩文）</p> <p>第12回 中世文学（説話・軍記物語）</p> <p>第13回 中世文学（物語・日記ほか）</p> <p>第14回 近世文学（和歌・狂歌・俳諧）</p> <p>第15回 近世文学（小説その他）</p>
授業概要	テキストに沿って、上代から近世に至る文学作品を年代順に読解していきます。
テキスト	久保田淳編『日本文学史』おうふう、1900円（本体価格）
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	日本文学史を通して日本とは何かを考えます。古典を知ることは現代に生きる我々自身を考えることに通じます。古典の名作に親しむことで日本人のルーツと変遷を確かめてみて下さい。
評価方法	レポート（100%）
参考文献	久保田淳ほか編『岩波講座日本文学史』全10巻、岩波書店 加藤周一『日本文学史序説 上・下』（加藤周一著作集4・5）筑摩書房
備考	

講義科目名称：国文学史二（10050）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	2	選択必修・教職必修
担当教員			
馬場 重行			
開放（教養）			

授業のテーマ及び到達目標	① 日本の近代小説の歴史について、最低限の知識習得を目指します。 ② 幅広い作家・作品への興味や関心を高めます。
授業計画	<p>第1回 「文学史」概説－「文学史」の可能性/不可能性 近代日本文学の史的展開の基本問題について概説。</p> <p>第2回 「近代文学系統図」(自主教材)による近代小説の系統的展開の第1回（明治文学以前） 明治文学の始動期について、啓蒙期の文学運動などを解説。</p> <p>第3回 「近代文学系統図」(自主教材)による近代小説の系統的展開の第2回（明治文学の展開①） 「小説神髓」の歴史的意義、硯友社の活動などを解説。</p> <p>第4回 「近代文学系統図」(自主教材)による近代小説の系統的展開の第3回（明治文学の展開②） 擬古典主義の文学、浪漫主義の文学など、日清戦争前後の文学について解説。</p> <p>第5回 「近代文学系統図」(自主教材)による近代小説の系統的展開の第4回（明治文学の展開③） 自然主義の文学について解説。</p> <p>第6回 「近代文学系統図」(自主教材)による近代小説の系統的展開の第5回（明治文学の展開④） 反自然主義の文学について解説。</p> <p>第7回 「近代文学系統図」(自主教材)による近代小説の系統的展開の第6回（大正文学の展開①） 「白樺」派の文学、新現実主義の文学について解説。</p> <p>第8回 「近代文学系統図」(自主教材)による近代小説の系統的展開の第7回（大正文学の展開②） 「新思潮」派、「奇蹟」派の文学について解説。</p> <p>第9回 「近代文学系統図」(自主教材)による近代小説の系統的展開の第8回（昭和文学の展開①） プロレタリア文学について解説。</p> <p>第10回 「近代文学系統図」(自主教材)による近代小説の系統的展開の第9回（昭和文学の展開②） 新感覚派の文学について解説。</p> <p>第11回 「近代文学系統図」(自主教材)による近代小説の系統的展開の第10回（昭和文学の展開③） 文芸復興期の文学、戦前・戦中の文学について解説。</p> <p>第12回 「近代文学系統図」(自主教材)による近代小説の系統的展開の第11回（昭和文学の展開④） 敗戦後の文学について解説。</p> <p>第13回 「近代文学系統図」(自主教材)による近代小説の系統的展開の第12回（昭和文学の展開⑤） 「近代文学」派から「第三の新人」までの文学を解説。</p> <p>第14回 「近代文学系統図」(自主教材)による近代小説の系統的展開の第13回（昭和文学から現代文学へ） 昭和から平成へ至る文学活動を解説。</p> <p>第15回 総括 現在の文学の状況を、映像表現など他のジャンルと組み合わせて解説。</p>
授業概要	明治以降から現代までの国文学の流れを小説作品中心に解説します。基礎的教養としての近・現代作家、作品、文芸思潮、文学結社などを覚えるという＜文学史もどき＞の授業が中心ですが、それらの基礎知識を習得しつつ、近代の小説作品の問題性、これからの文学のあり方など、本来の「文学史」を考えたいと願っています。
テキスト	自主教材用のプリントを配布します。参考資料は講義のなかで適宜指示します。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	高校時代に使用した「国語便覧」の類があれば用意して下さい。興味を引くような作家・作品の話を多く取り入れます。
評価方法	期末試験（60％）、小テスト（20％）、授業への積極的な参加度（20％）
参考文献	講義中に適宜紹介予定。
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	1	4	選択必修
担当教員			
齋藤 奈美			

授業のテーマ及び到達目標	1. 古典文学読解のための基礎的な知識を身につける。 2. 辞書、索引などを使って調査する方法を身につける。 3. 調べたことをもとに、自らの意見を組み立て、発表する方法を学ぶ。		
授業計画	第1回	ガイダンス(辞書・文献などの使い方、発表資料の作成方法について)	
	第2回	『伊勢物語』概説①「『伊勢物語』の時代と在原業平」「書名と成立」	
	第3回	『伊勢物語』概説②『伊勢物語』と『古今和歌集』」「成立論について」	
	第4回	『伊勢物語』講読「初冠」(初段) (「講読」は教員による講義形式で行う。以下同じ。)	
	第5回	『伊勢物語』講読「二条后章段」①(第三段・第四段)	
	第6回	『伊勢物語』演習「筒井筒」①(第二十三段) (受講生全員で分担して読む)	
	第7回	『伊勢物語』演習「筒井筒」②(第二十三段) (受講生全員で分担して読む)	
	第8回	『伊勢物語』講読「二条后章段」②(第五段・第六段)	
	第9回	『伊勢物語』講読「二条后章段」③(第六十五段)	
	第10回	『伊勢物語』演習「東下り章段」①(第七段～第九段) (「演習」は担当者による発表と出席者による質疑応答で行う。以下同じ。)	
	第11回	『伊勢物語』演習「東下り章段」②(第七段～第九段)	
	第12回	『伊勢物語』演習「東国章段」①(第十段～第十三段)	
	第13回	『伊勢物語』演習「東国章段」②(第十段～第十三段)	
	第14回	『伊勢物語』演習「陸奥国章段」①(第十四段)	
	第15回	『伊勢物語』演習「陸奥国章段」②(第十五段)	
	第16回	『伊勢物語』講読「狩使章段」(第六十九段)	
	第17回	『伊勢物語』演習「実名章段」(第十六段・第三十九段・第百一段など)	
	第18回	『伊勢物語』演習「梓弓」(第二十四段)	
	第19回	『伊勢物語』演習「行く蛸」(第四十五段)	
	第20回	『伊勢物語』演習「花橘」(第六十段)	
	第21回	『伊勢物語』演習「つくも髪」(第六十三段)	
	第22回	『伊勢物語』演習「斎宮章段」①(第七十段～第七十五段)	
	第23回	『伊勢物語』演習「二条后章段」(第七十六段・第九十五段)	
	第24回	『伊勢物語』演習「惟喬親王章段」①(第八十二段・第八十三段・第八十五段)	

	第25回	『伊勢物語』演習「惟喬親王章段」②(第八十二段・第八十三段・第八十五段)
	第26回	『伊勢物語』演習「さらぬ別れ」(第八十四段)
	第27回	『伊勢物語』演習「斎宮章段」②(第百二段・第百四段)
	第28回	『伊勢物語』演習「翁章段」(第七十六段～第七十九段・第百十四段など)
	第29回	『伊勢物語』演習「陸奥国章段」③(第百十五段・第百十六段)
	第30回	『伊勢物語』演習「つひにゆく道」(第百二十四段・第百二十五段)
授業概要	『伊勢物語』を読みます。担当者が調べ考察したことを報告した後、他の人から質問・意見を受け、討論する演習形式で進めます。	
テキスト	石田穰二訳注『伊勢物語』(角川ソフィア文庫)税込価格778円	
受講生へのメッセージ(授業評価を踏まえた方針など)	『伊勢物語』は和歌とその和歌をめぐる物語からなる短い章段、百二十五段で構成されています。和歌の解釈、章段ごとの解釈、『伊勢物語』の中での解釈と、さまざまに読むことができるおもしろさを感じ取ってもらえればと思います。毎時全員に発言を求めますので、予習して授業に臨んで下さい。	
評価方法	発表・討論における発言・出席(70%)、年度末レポート(30%)	
参考文献	授業時に指示します。	
備考		



講義科目名称：国文学基礎演習三（10130）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	1	4	選択必修
担当教員			
佐々木 紀一			

授業のテーマ及び到達目標	古典文法の復習もかね、古典学習の方法を学び、和歌を中心に古典の読解を発展させます。		
授業計画	第1回	導入 藤原公重と『風情集』述懐百種について	
	第2回	古典文法概観・古典読解の諸道具（辞書・辞典・図書館・検索法）について	
	第3回	古典和歌の世界、修辞について	
	第4回	受講生の発表1（風情集535～537番、以下同） 以下、一人一首計三名の発表	
	第5回	受講生の発表2（風情集538～540）	
	第6回	受講生の発表3（風情集541～543）	
	第7回	受講生の発表4（風情集544～546）	
	第8回	受講生の発表5（風情集547～549）	
	第9回	受講生の発表6（風情集548～550）	
	第10回	受講生の発表7（風情集551～554） 以下、一人二首二名の発表	
	第11回	受講生の発表8（風情集555～558）	
	第12回	受講生の発表9（風情集559～562）	
	第13回	受講生の発表10（風情集563～566）	
	第14回	受講生の発表11（風情集567～570）	
	第15回	受講生の発表12（風情集571～574）	
	第16回	受講生の発表13（風情集575～578）	
	第17回	受講生の発表14（風情集579～582）	
	第18回	受講生の発表15（風情集583～586）	
	第19回	受講生の発表16（風情集587～590）	
	第20回	受講生の発表17（風情集591～594）	
	第21回	受講生の発表18（風情集595～598）	
	第22回	受講生の発表19（風情集599～602）	
	第23回	受講生の発表20（風情集603～606）	
	第24回	受講生の発表21（風情集607～610）	
	第25回	受講生の発表22（風情集611～614）	

	<p>第26回 受講生の発表23 (風情集615～618)</p> <p>第27回 受講生の発表24 (風情集619～622)</p> <p>第28回 受講生の発表25 (風情集623～626)</p> <p>第29回 受講生の発表26 (風情集627～630)</p> <p>第30回 受講生の発表27 (風情集631～633) 未発表者調整の回</p>
授業概要	<p>平安時代後期の歌人藤原公重の歌集『風情集』末尾の百首は、あたかも自虐・ウツの感情に満ち満ちた大変ユニークな和歌です。勿論、平安和歌ですから、平安時代を基とする「古典文法」と修辞に基づいてをります。授業では、この作品に限らず、古典作品を読む為の参考図書、辞書等の利用方を学び、各自、宛てられた和歌を読み解き、その意味、技法を発表します。</p>
テキスト	<p>コピーを配ります。高校で利用した古典文法、古語辞書必携 (電子辞書はお勧めしません)</p>
受講生へのメッセージ (授業評価を踏まえた方針など)	<p>吾と云へば人の言葉はあらし山かくては何と生まれこしぢぞ 「私が…」といふと他人の言葉は荒いのです (荒らしと愛発山が懸詞)。この様な状況では、どうして私は生まれてきたのだらう (と歎かれます) (来しと越路が懸詞) なんて素敵なお歌が続出です。 古典文法を復習しながら、貴女の感性にピッタリの和歌世界に浸れます。</p>
評価方法	<p>演習の発表 (100%)</p>
参考文献	<p>片桐洋一『歌枕・歌ことば辞典』</p>
備考	

講義科目名称：国文学基礎演習四（10140）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	1	4	選択必修
担当教員			
岡 英里奈			

授業のテーマ及び到達目標	<p>明治20～30年代の短篇小説の読解を通して、近代文学の黎明期について検討していく。それ以前は暇つぶしの「娯楽」であった小説を、「美術(芸術)」として再構築する際、いかなる文体や人間・社会の表現が試みられたのか、各作家の模索の跡を読み解いていく。同時に、作品中の言葉・事象や時代背景、作者について等の基礎的な調査の方法、読解の切り口となる問題設定の方法、それらをもとにした意見の伝え方や議論の方法について学ぶ。</p>		
授業計画	第1回	ガイダンス テキスト、年間計画、授業形態について説明	
	第2回	報告者選定、明治20～30年代の文学史概説①「芸術」としての小説の誕生	
	第3回	明治20～30年代の文学史概説②小説を支えたメディア	
	第4回	坪内逍遙「細君」①基礎事項と内容理解	
	第5回	坪内逍遙「細君」②議論による読解	
	第6回	嵯峨の屋おむろ「くされたまご」①基礎事項と内容理解	
	第7回	嵯峨の屋おむろ「くされたまご」②議論による読解	
	第8回	山田美妙「この子」①基礎事項と内容理解	
	第9回	山田美妙「この子」②議論による読解	
	第10回	森おう外「舞姫」①基礎事項と内容理解	
	第11回	森おう外「舞姫」②議論による読解	
	第12回	尾崎紅葉「拈華微笑」①基礎事項と内容理解	
	第13回	尾崎紅葉「拈華微笑」②議論による読解	
	第14回	幸田露伴「対髑髏」①基礎事項と内容理解	
	第15回	幸田露伴「対髑髏」②議論による読解	
	第16回	報告者選定、15回までを対象とした中間レポートの提出	
	第17回	中間レポート・講評	
	第18回	清水紫琴「こわれ指輪」①基礎事項と内容理解	
	第19回	清水紫琴「こわれ指輪」②議論による読解	
	第20回	斎藤緑雨「かくれんぼ」①基礎事項と内容理解	
	第21回	斎藤緑雨「かくれんぼ」②議論による読解	
	第22回	樋口一葉「わかれ道」①基礎事項と内容理解	
	第23回	樋口一葉「わかれ道」②議論による読解	
	第24回	泉鏡花「龍潭譚」①基礎事項と内容理解	

	<p>第25回 泉鏡花「龍潭譚」②議論による読解</p> <p>第26回 国木田独歩「武蔵野」①基礎事項と内容理解</p> <p>第27回 国木田独歩「武蔵野」②議論による読解</p> <p>第28回 広津柳浪「雨」①基礎事項と内容理解</p> <p>第29回 広津柳浪「雨」②議論による読解</p> <p>第30回 まとめ、期末レポートにむけた準備</p>
授業概要	日本近代文学における黎明期の作品群を演習形式で読み解きながら、文学を読むための基礎力の養成を目指す。毎回、報告者とディスカッサント(質問者、議論のまとめ役)を設定し、それぞれの意見を交わし合うことで、各自の読解を深めていく。
テキスト	紅野敏郎ほか編『日本近代短篇小説選 明治篇1』(岩波文庫) 900円+税
受講生へのメッセージ(授業評価を踏まえた方針など)	作品を読んで、皆さんが面白い、あるいはつまらないと思ったところ、疑問に思ったところを大事にしていきたいと思います。そこにどのような調査や考察を加えていくと、一つの論としてレポートや論文のかたちに見合う(読み)になっていくのか、一緒に学習していきましょう。皆さんそれぞれの視点や意見をもとに授業を組み立てていくので、積極的な態度・発言を期待します。
評価方法	授業中の報告内容(30%)、質疑などの発言(20%)、レポート課題(50%)によって評価する。
参考文献	授業中に適宜提示する。
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	1	4	選択必修
担当教員			
馬場 重行			

授業のテーマ及び到達目標	<p>①国語国文学の基礎となる作品の「読み」について、演習形式で学習します。</p> <p>②各自が報告者となり、毎回、作品について討議を交わす形で授業が展開されます。自分が発言し、他の人の意見を聞くという機会を通して、「読み」の意味を確認していくことがねらいです。</p>
授業計画	<p>第1回 全体の進行や年間計画等の説明 演習形式や年間計画などについて概説。 報告者は1週間前にレジメを配布、受講者は作品とレジメとを必ず読んでから講義に参加することを確認。</p> <p>第2回 年間計画の策定・芥川龍之介解説① 発表担当作品等の年間計画を策定、芥川龍之介の生涯と文学について解説①。</p> <p>第3回 芥川龍之介解説② 芥川龍之介の生涯と文学について解説②。</p> <p>第4回 「羅生門」 「羅生門」を演習形式で読む。 レジメに従って問題点等を確認、それに対する各自の意見交換、質疑応答。以下、この内容を踏襲。</p> <p>第5回 「鼻」 「鼻」を演習形式で読む。</p> <p>第6回 「芋粥」 「芋粥」を演習形式で読む。</p> <p>第7回 「或日の大石内蔵助」 「或日の大石内蔵助」を演習形式で読む。</p> <p>第8回 「蜘蛛の糸」 「蜘蛛の糸」を演習形式で読む。</p> <p>第9回 「地獄変」 「地獄変」を演習形式で読む。</p> <p>第10回 「枯野抄」 「枯野抄」を演習形式で読む。</p> <p>第11回 「奉教人の死」 「奉教人の死」を演習形式で読む。</p> <p>第12回 「杜子春」 「杜子春」を演習形式で読む。</p> <p>第13回 「秋」 「秋」を演習形式で読む。</p> <p>第14回 「舞踏会」 「舞踏会」を演習形式で読む。</p> <p>第15回 「南京の基督」 「南京の基督」を演習形式で読む。</p> <p>第16回 「藪の中」① 「藪の中」を演習形式で読む①。</p> <p>第17回 「藪の中」② 「藪の中」を演習形式で読む②。</p> <p>第18回 「トロッコ」 「トロッコ」を演習形式で読む。</p> <p>第19回 「雛」 「雛」を演習形式で読む。</p> <p>第20回 「六の宮の姫君」 「六の宮の姫君」を演習形式で読む。</p> <p>第21回 「一塊の土」 「一塊の土」を演習形式で読む。</p> <p>第22回 「玄鶴山房」① 「玄鶴山房」を演習形式で読む①。</p> <p>第23回 「玄鶴山房」② 「玄鶴山房」を演習形式で読む②。</p>

	<p>第24回 「点鬼簿」 「点鬼簿」を演習形式で読む。</p> <p>第25回 「河童」① 「河童」を演習形式で読む①。</p> <p>第26回 「河童」② 「河童」を演習形式で読む②。</p> <p>第27回 「歯車」① 「歯車」を演習形式で読む①。</p> <p>第28回 「歯車」② 「歯車」を演習形式で読む②。</p> <p>第29回 芥川龍之介の小説世界 演習を通して見えてきた芥川龍之介の小説世界について、演習形式で討議する。</p> <p>第30回 総括 芥川龍之介の文学世界についてを総括し、作品の「読み」の課題を確認する。</p>
授業概要	国語国文学の基礎となる作品の「読み」について、演習形式で学習します。各自が報告者となり、毎回、作品について討議を交わす形で授業が展開されます。自分が発言し、他の人の意見を聞くという機会を通して、「読み」の意味を確認していくことがねらいです。
テキスト	芥川龍之介『羅生門・蜘蛛の糸・杜子春外十八篇』（文春文庫）
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	毎回の発言を最も重視し、評価もそこを基点に行います。さらに、報告資料やレポート等を加味して総合評価を行います。必ず1回以上は発言を求めますので、積極的に参加して下さい。授業評価で指摘のあった、席替えや進行形式については、みんなで相談してより望ましい形にそのつど改めていく予定です。
評価方法	授業への積極的参加度（50%）、期末レポート課題（50%）
参考文献	演習の中で適宜紹介する予定。
備考	

講義科目名称：国語学基礎演習一（10160）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	1	4	選択必修
担当教員			
山本 淳			

授業のテーマ及び到達目標	国文学・国語学の基礎的知見を身につけることを授業テーマの主軸に据えて、古典文学の文章に触れ、古典文法をしっかり復習して、古典を「読む」ことに習熟することを目標とする。		
授業計画	第1回	導入 古典の仮名遣いについて	
	第2回	日本文学史の時代区分	
	第3回	文学史の流れを大掴みに把握する（上代・中古文学）	
	第4回	文学史の流れを大掴みに把握する（中世・近世文学）	
	第5回	『日本古典文学大辞典』を使って実際の作品の概要について調べる	
	第6回	辞書の構成について	
	第7回	古語辞典を使って古語を調べる	
	第8回	清少納言の活躍した時代背景について	
	第9回	『枕草子』執筆の動機について	
	第10回	『枕草子』本文系統について	
	第11回	『枕草子』類聚章段を読む	
	第12回	『枕草子』随想的章段を読む	
	第13回	『枕草子』日記的章段を読む	
	第14回	『枕草子』が後代に与えた影響について	
	第15回	まとめと後期演習の計画	
	第16回	北村季吟『枕草春曙抄』について	
	第17回	『春曙抄』本文を読む	
	第18回	『春曙抄』頭注・補注を読む	
	第19回	発表に備えて各自「読み」を練習する①（変体仮名の解説）	
	第20回	発表に備えて各自「読み」を練習する②（注釈部の理解）	
	第21回	発表①「清涼殿の丑寅の隅の」	
	第22回	発表②「頭中将のそぞろなるそら言にて」	
	第23回	発表③「里にまかでたるに」	
	第24回	発表④「淑景舎東宮にまゐりたまふほどのことなど」	
	第25回	発表⑤「円融院の御はての年」	

	<p>第26回 発表⑥「故院などおはしまさで」</p> <p>第27回 発表⑦「宮に初めてまゐりたるころ」</p> <p>第28回 発表⑧「御前に人々あまたもの仰せらるるついでに」</p> <p>第29回 発表⑨「大納言殿まゐりて」</p> <p>第30回 発表⑩「僧都の君の御乳母」</p>
授業概要	日本の古典文学におけるおおよその歴史的展開を理解するため、代表的な古典作品を抜粋して、文体的な特徴をつかむ。後に、日本古典文学の代表的作品『枕草子』を取り上げ、日記的章段を中心に、受講生自ら、難解な表現について注釈書を紐解きながら解説し、「読み」の発表を行いつつ、受講生全体で理解を深めていく。
テキスト	テキストは指定せず、資料をプリントで配布します。高校時代に国語科の授業で用いた『古語辞典』（相応の電子辞書も可）もしくは文法のサブテキスト(何でも良い)を用意してください。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	高校時代、古典にあまり触れて来なかった方を対象として行いたいと思います。作業中心に進めることが理解度に結びついたとの意見が寄せられたので、できるかぎりそのように計らいたく思います。
評価方法	授業への参加度(70%)+発表の成果(30%)
参考文献	小田勝『事例詳解古典文法総覧』（和泉書院） 田中重太郎『枕冊子全注釈』（角川書店） 萩谷朴『枕草子解環』（同朋舎出版）
備考	



講義科目名称：国語学基礎演習二（10170）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	1	4	選択必修
担当教員			
高橋 永行			

授業のテーマ及び到達目標	現代日本語表現に関する実践力、思考力の養成を目指します。国語教育の分野を含みます。		
授業計画	1	導入 書き言葉 前期 基本資料の配付とグループ分け	
	2	話し合いの仕方	
	3	発表資料の作成の仕方と印刷室の使い方	
	4	情報発信力を高める 導入	
	5	表現の基礎 表記とことばづかい	
	6	情報を整理して示す メニューを作る	
	7	情報を確実に伝える 注意書き	
	8	情報を正確に伝える 連絡メール	
	9	コミュニケーション力をつける 導入	
	10	表現の基礎 読みやすい文	
	11	相手に合わせて表現する 敬語	
	12	配慮して伝える お願いする	
	13	丁寧に伝える 手紙の書き方	
	14	前期のまとめ	
	15	後期の担当確認	
	16	導入 話し言葉	
	17	アピール力をつける	
	18	表現の基礎 わかりやすい表現	
	19	企画のアピール	
	20	話すトレーニングの進め方	
	21	問い合わせをする	
	22	お店で接客する	
	23	お願いをする	
	24	お店やサークルの宣伝をする	
	25	誘う、断る、謝る	

	26	道や交通の案内をする
	27	スピーチをする
	28	グループ報告書作成の仕方
	29	報告書の作成
	30	成果の発表
授業概要	<p>言語理解と言語表現をアクティブラーニングの視点からグループワークという作業を通して実践的にまた主体的に学ぶための演習をします。仮想世界の会話や文書による表現にふれながら、ことばの働きに関して重要と考えられる言語学的トピックスを取り上げ、エクササイズを行います。具体的には、「ちょっとおかしいんじゃない」と感じとれる文例を参照し、どこがおかしいのか、どう直せばよいのかをみんなで検討してみましょう。演習形態はグループ編成学習です。3～4グループに分けます。</p>	
テキスト	<p>『グループワークで日本語表現力アップ』ひつじ書房 『日本語を話すトレーニング』ひつじ書房</p>	
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	<p>演習は、学生による学生のための時間です。教師役と学生役を受講生が交替しながら自分たちで運営しているかなければなりません。出席し、参加することが一番大切なことです。</p>	
評価方法	<p>演習への参加度・質疑応答の参加度（100%） 筆記試験・個別レポートはありません。</p>	
参考文献		
備考		

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	1・2	4	選択・教職選択必修
担当教員			
高橋 永行			

授業のテーマ及び到達目標	日本語音声学の入門講座です。音声表現に関して基礎知識の定着と実践力を養成します。		
授業計画	1	導入	音声学とは
	2		日本語のリズム
	3		聞くとは
	4		方言の音声
	5		外国語の音声
	6		調音
	7		身体器官の仕組み
	8	母音	日本人の口の開き方と英語の基本母音
	9		口の観察
	10	子音	口音と鼻音
	11	閉鎖音・摩擦音	子音2
	12	破擦音・接近音・弾き音	子音3
	13	母音の無声化	聞き取りとルール
	14	鼻濁音	聞き取りと発音練習
	15	振り返り学習	前期の復習
	16	導入	五〇音の並び 前期の復習2
	17		音声連続の特色（プロソディ）
	18		リズムとスタッカート
	19		音の感覚 アクセント
	20		アクセントの識別
	21	イントネーション	韻律特徴
	22	フォーカス	プロミネンスとポーズ
	23		ナレーションの工夫
	24		声あての工夫
	25		朗読

	<p>26 古典 表現読み 太宰治作品</p> <p>27 フレージング</p> <p>28 プロソディの復習と確認</p> <p>29 群読</p> <p>30 まとめと試験</p>
授業概要	LL教室で講義と実習、グループ学習を中心に行い、話す音と聞く音はどう違うのかを体験します。
テキスト	本年度の国語学概論のテキスト『図解日本語』を利用します。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	教職（国語）必修科目として履修する場合は1年生で受講しましょう。また近い将来音声学の素養が必要になる人は受講が望ましいと思われます。音声に関する身近な例（CD、DVD、BD）を多く挙げます。歌手などの口の開き方を観察します。プリントを多数併用します。綴じるファイルを用意してください。
評価方法	1年間座席指定。授業への参加度を重視80%（グループ課題達成度20%を含む）試験20%。
参考文献	
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	1・2	4	選択・教職選択必修
担当教員			
山本 淳			

授業のテーマ及び到達目標	I 日本語の音声についての理解を深める。 II 自分の話し言葉をふり返りつつどのような音声的な特徴をもって話しているかを知る。
授業計画	<p>第1回 導入一年間計画・受講者の言語歴一</p> <p>第2回 話し言葉と音声</p> <p>第3回 音・音声について</p> <p>第4回 音声器官と各部位の特徴</p> <p>第5回 発声と発音あるいは調音</p> <p>第6回 日本語の標準母音</p> <p>第7回 世界言語中の日本語母音</p> <p>第8回 子音の特徴</p> <p>第9回 子音の分類とくに調音の位置と方法とについて</p> <p>第10回 子音の分類とくに音声素性について</p> <p>第11回 母音と子音(まとめ)</p> <p>第12回 五十音図の音声学</p> <p>第13回 有声と無声</p> <p>第14回 有気と無気</p> <p>第15回 母音の無声化</p> <p>第16回 子音の口蓋化</p> <p>第17回 音の清・濁ならびに連濁の諸相</p> <p>第18回 ガ行濁子音のこと</p> <p>第19回 撥音・促音・長音の話</p> <p>第20回 四つがなのこと</p> <p>第21回 音声学と音韻論</p> <p>第22回 音素と異音</p> <p>第23回 標準日本語の音節</p> <p>第24回 日本語音韻史 上代・中古編</p> <p>第25回 日本語音韻史 中世・近世編</p>

	<p>第26回 標準日本語のアクセント</p> <p>第27回 プロミネンスとインテンシティ</p> <p>第28回 東部方言の音声・音韻・アクセント</p> <p>第29回 西部・九州方言の音声・音韻・アクセント</p> <p>第30回 まとめ</p>
授業概要	標準日本語の音声・音韻・アクセント全般について、受講者による言語の内省を促しつつ講述する。また自分の音声にはどのような特徴があるのか、自分の話し言葉を入念に観察する。
テキスト	川上泰『日本語音声概説』（おうふう・1300円＋税）併せて授業時プリントを配布する。当該時間の欠席者にはレターケースに投函する。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	授業評価において、理解するのが難しい旨何件か寄せられております。それに対しては、自分自身の発音をじっくり観察しながら体験的に学修できるように、なるべくその時間を確保して進めたいと思います。またこの授業は、授業コード10191との重複履修ができませんので、ご注意ください。
評価方法	授業への参加度(50%)および確認試験(50%)
参考文献	城生佰太郎・福盛貴弘・齋藤純男『音声学基本事典』（勉誠出版） 『音声学大辞典』（三修社） 服部四郎『音声学』（岩波書店）
備考	

講義科目名称：国文学講読一（10210）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	2	選択必修
担当教員			
岩原 真代			

授業のテーマ及び到達目標	『古今和歌集』の読解を通して、韻文世界に親しむ。 『古今和歌集』の影響と受容の諸相を理解する。
授業計画	<p>第1回 『古今和歌集』概説（和歌史）</p> <p>第2回 『万葉集』秀歌の読解</p> <p>第3回 『万葉集』秀歌の読解</p> <p>第4回 『古今和歌集』の読解－仮名序－</p> <p>第5回 『古今和歌集』の読解－春歌 上・下－</p> <p>第6回 『古今和歌集』の読解－夏歌－</p> <p>第7回 『古今和歌集』の読解－秋歌上・下－</p> <p>第8回 『古今和歌集』の読解－冬歌・賀歌－</p> <p>第9回 『古今和歌集』の読解－離別歌－</p> <p>第10回 『古今和歌集』の読解－羈旅歌－</p> <p>第11回 『古今和歌集』の読解－恋歌一・二－</p> <p>第12回 『古今和歌集』の読解－恋歌三・四－</p> <p>第13回 『古今和歌集』の読解－恋歌五・哀傷歌－</p> <p>第14回 『古今和歌集』の読解－雑歌上・下－</p> <p>第15回 『古今和歌集』の読解－東歌－</p>
授業概要	講義の形をとります。
テキスト	小町谷照彦訳注『古今和歌集』（ちくま学芸文庫）、定価1500円（本体価格）
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	平安時代の最初の勅撰和歌集『古今和歌集』は日本人の季節感を形作り、また『枕草子』にも出てくるように、愛唱されて新しい和歌を産む素養となりました。『源氏物語』の引歌で最も多いのもこの作品です。和歌の読解と鑑賞を通して古典文学に親しみ、平安時代の感性を身につけることで、他の作品をも理解することができるようになります。
評価方法	レポート（80%）、授業への参加の度合い（20%）で評価する。
参考文献	新編日本古典文学全集『古今和歌集』小学館 新日本古典文学大系『古今和歌集』岩波書店
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	2	選択必修
担当教員			
齋藤 奈美			

授業のテーマ及び到達目標	1. 平安時代の物語文学を理解するための基礎的な知識を身につける。 2. 辞書などを使って調べ、読解する力を身につける。
授業計画	<p>第1回 『源氏物語』概説①（「成立と作者」－『紫式部日記』と『源氏物語』）</p> <p>第2回 『源氏物語』概説②（「諸本」、「『源氏物語』の構造」）</p> <p>第3回 「桐壺」巻講読 「冒頭表現と時代設定」 （他作品の冒頭との比較）</p> <p>第4回 「桐壺」巻講読 「桐壺更衣の紹介」① （更衣の身分と帝の寵愛）</p> <p>第5回 「桐壺」巻講読 「桐壺更衣の紹介」② （桐壺更衣と弘徽殿女御についての記述の比較）</p> <p>第6回 「桐壺」巻講読 「光源氏の誕生と更衣の苦悩」 （後宮建築から物語の記述を読み解く）</p> <p>第7回 「桐壺」巻講読 「帝との別れ」 （桐壺更衣の最期の和歌の解釈）</p> <p>第8回 「桐壺」巻講読 「更衣の死－帝の悲嘆と母君への弔問」 （帝と母君の更衣の死への思いの違い）</p> <p>第9回 「桐壺」巻講読 「帝の哀傷と『長恨歌』」 （『長恨歌』の引用と表現効果）</p> <p>第10回 「桐壺」巻講読 「若宮参内－その才能と美貌」 （主人公の超人的設定とその意味）</p> <p>第11回 「桐壺」巻講読 「高麗人の観相－若宮、源姓を賜る」 （『源氏物語』における予言と長編的構想）</p> <p>第12回 「桐壺」巻講読 「藤壺の入内」 （光源氏の生涯を決定づける人物の登場）</p> <p>第13回 「桐壺」巻講読 「光源氏の元服と左大臣」 （光源氏の政治的立場の確立）</p> <p>第14回 「桐壺」巻講読 「光源氏、藤壺を恋慕」 （光源氏の恋愛譚の基調）</p> <p>第15回 「桐壺」巻講読 「結び」 （『源氏物語』の長編的構想）</p>
授業概要	『源氏物語』の「桐壺」巻を講読します。和歌・語句・表現・引用などを解説し、物語を逐語的に解釈した上で、解釈上の問題点や、構想との関わりなどを考察します。
テキスト	玉上琢彌訳注『源氏物語』第1巻（角川ソフィア文庫）税込価格864円
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	「桐壺」巻には、光源氏誕生までの経緯、類稀な美貌と才能・「帝王」の相を持ちながらの臣籍降下、義母藤壺への思慕など、『源氏物語』の長編的構想に関わる重大な事柄が描かれています。ドラマチックな物語展開、巧みな伏線、登場人物の心情描写など、豊かな表現世界に触れてみてください。毎回、各自の解釈や感想、疑問を書いてもらい講義に反映させる予定です。予習の上、出席して下さい。
評価方法	授業への参加度と提出物（30%）、学期末の筆記試験（70%）
参考文献	
備考	



講義科目名称：国文学講読三（10230）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	2	選択必修
担当教員			
佐々木 紀一			

授業のテーマ及び到達目標	『保元物語』を読み解き、その魅力を知ると共に、その成立について学びます。		
授業計画	第1回	導入	保元物語の歴史的背景
	第2回		保元の乱の成立、諸本、作者像
	第3回		『保元物語』と対象歴史史料
	第4回		卷上講読一（乱の発端、崇徳院・藤原頼長）
	第5回		卷上講読二（策士信西の登場、陰謀の深化）
	第6回		卷上講読三（為義、その子英雄為朝の形象）
	第7回		卷上講読四（英雄為朝一党の成立）
	第8回		卷中講読一（合戦、清盛の懦弱、山田伊行の暴死）
	第9回		卷中講読二（合戦、義朝・為朝兄弟対決）
	第10回		卷中講読三（乱戦、関東武士の群像）
	第11回		卷下講読一（敗走・頼長最期）
	第12回		卷下講読二（父為義の処刑）
	第13回		卷下講読三（幼児とその母の死）
	第14回		卷下講読四（為朝捕縛流罪）
	第15回		卷下（番外）為朝の冒険と最期
授業概要	保元の乱にもとづいた本作品三巻は、歴史的事件に基づきながら、英雄為朝の活躍や源氏の遺児達の処刑場面に見られる様に、物語としての飛躍があります。授業では単に意味を取るのではなく、歴史資料（『愚管抄』・『兵範記』等）との比較、保元物語の諸本（内容が異なる本、半井本・鎌倉本・京図本・竜門本・金刀比羅本、古活字本等）間の比較を通じて、立体的に物語を精読します。		
テキスト	コピーを配ります。		
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	さまざまな媒体で、源平合戦、あるいは保元の乱についてどこかで知ってゐる、キャラ萌えしてゐる貴女！『保元物語』がその根源ですぞ！ しかし歴史資料からする保元の乱の真相、『保元物語』諸本による事件展開、人物造型の相違等、今までとは異なる保元物語が起ち上がって来ると思ひます。 読まうと思へば三日で読める分量ぢやが、ねっつく読むぞ（`谷´；）		
評価方法	レポート（100%）		
参考文献	授業で適宜指示		
備考			

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	2	選択必修
担当教員			
岡 英里奈			

授業のテーマ及び到達目標	<p>テーマは日本自然主義文学の再検討、サブテーマは〈明治の文学青年像〉である。昨今ではほとんど読まれなくなった島崎藤村と田山花袋という、自然主義文学を代表する二作家の作品を対象に、その面白さ、あるいはつまらなさ、日本近代文学史上における意義や問題点について議論していく。同時に、講義全体を通して、作家像や時代背景などの知識を踏まえながら、作品そのものをどう面白く、有意義なものとして読み込んでいくのかについて、その方法を学び、実践する。</p>
授業計画	<p>第1回 ガイダンスと概説：文学史上における島崎藤村・田山花袋</p> <p>第2回 『破戒』を読み解くテーマについて解説</p> <p>第3回 『破戒』①第壱～六章の読解</p> <p>第4回 『破戒』②第七～拾弐章の読解</p> <p>第5回 『破戒』③前半部分のまとめ</p> <p>第6回 『破戒』④第拾参～拾七章の読解</p> <p>第7回 『破戒』⑤第拾八～弐拾弐章の読解</p> <p>第8回 『破戒』⑥後半部分のまとめ</p> <p>第9回 『田舎教師』を読み解くテーマについて解説</p> <p>第10回 『田舎教師』①一～九の読解</p> <p>第11回 『田舎教師』②十～十五の読解</p> <p>第12回 『田舎教師』③十六～三十五の読解</p> <p>第13回 『田舎教師』④三十六～六十四の読解</p> <p>第14回 『田舎教師』⑤全体のまとめ</p> <p>第15回 まとめ(二作品の比較、差異と共通点について解説・討論)</p>
授業概要	<p>授業は、教員による講義・解説が6割、履修者同士によるディスカッションを4割として進める。第3～8回、第10～13回では、あらかじめ対象範囲を読み、提示された課題について自分の意見をまとめる「予習ノート」の提出を課題とする。講義と意見交換の時間を有効に活用しながら、2つの作品が人間や社会をどのように描き出しているのか、またその試みにはどのような意義があるのかについて理解を深める。</p>
テキスト	<p>島崎藤村『破戒』（新潮文庫）税込767円、田山花袋『田舎教師』（新潮文庫）税込562円</p>
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	<p>「予習ノート」の取り組みに力を入れて欲しいと思います（詳しい内容については初回時に説明します）。はじめに読んで面白く、あるいはつまらなく思ったところ、わからなかったところ、大事だと思ったところが、講義や他の人とのディスカッションによって、どのように掘り下げられていくのか。皆さん自身の（読み）の深化・発展を実感してください。</p>
評価方法	<p>予習ノートの提出（25%）、ディスカッションでの発言（25%）、期末レポート（50%）によって評価する。</p>
参考文献	<p>授業中に適宜提示する。</p>
備考	

講義科目名称：国文学講読五（10250）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	2	選択必修
担当教員			
岡 英里奈			

授業のテーマ及び到達目標	<p>テーマは日本自然主義文学の再検討、サブテーマは〈近代における女性の表象〉である。昨今ではほとんど読まれなくなった徳田秋声と島崎藤村という二作家の作品を対象に、その面白さ、あるいはつまらなさ、日本近代文学史上における意義や問題点について議論していく。同時に、講義全体を通して、作家像や時代背景などの知識を踏まえながら、作品そのものをどう面白く、有意義なものとして読み込んでいくのかについて、その方法を学び、実践する。</p>		
授業計画	第1回	ガイダンスと概説：文学史上における徳田秋声・島崎藤村	
	第2回	徳田秋声における女性の表象、『あらくれ』を読み解くテーマについて解説	
	第3回	『あらくれ』①一～二十の読解	
	第4回	『あらくれ』②二十一～四十の読解	
	第5回	『あらくれ』③四十一～六十の読解	
	第6回	『あらくれ』④六十一～八十の読解	
	第7回	『あらくれ』⑤八十一～百の読解	
	第8回	『あらくれ』⑥百一～百十三の読解	
	第9回	『あらくれ』⑦全体のまとめ	
	第10回	島崎藤村における女性の表象、『ある女の生涯』を読み解くテーマについて解説	
	第11回	『ある女の生涯』①前半部分の読解	
	第12回	『ある女の生涯』②後半部分の読解	
	第13回	『ある女の生涯』③全体のまとめ	
	第14回	二作品の比較、差異と共通点について解説・討論	
	第15回	まとめ	
授業概要	<p>授業は、教員による講義・解説が6割、履修者同士によるディスカッションを4割として進める。第3～9回、第11～13回では、あらかじめ対象範囲を読み、提示された課題について自分の意見をまとめる「予習ノート」の提出を課題とする。講義と意見交換の時間を有効に活用しながら、2つの作品が人間や社会をどのように描き出しているのか、またその試みにはどのような意義があるのかについて理解を深める。</p>		
テキスト	<p>徳田秋声『あらくれ』（講談社学芸文庫）1300円＋税、他プリント配布</p>		
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	<p>「予習ノート」の取り組みに力を入れて欲しいと思います（詳しい内容については初回時に説明します）。はじめに読んで面白く、あるいはつまらなく思ったところ、わからなかったところ、大事だと思ったところが、講義や他の人とのディスカッションによって、どのように掘り下げられていくのか。皆さん自身の（読み）の深化・発展を実感してください。</p>		
評価方法	<p>予習ノートの提出（25%）、ディスカッションでの発言（25%）、期末レポート（50%）によって評価する。</p>		
参考文献	<p>授業中に適宜提示する。</p>		
備考			

講義科目名称：国文学講読六（10260）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	2	選択必修
担当教員			
岩原 真代			

授業のテーマ及び到達目標	代表的な平安前期の物語文学『竹取物語』の読解を通して、物語の発生を知り、古典文学研究の基礎的な方法を身につけます。
授業計画	<p>第1回 古典文学読解のための基礎知識</p> <p>第2回 古代文学史</p> <p>第3回 前期物語の世界</p> <p>第4回 『竹取物語』の読解－かぐや姫の生い立ち－</p> <p>第5回 求婚譚と五つの難題</p> <p>第6回 蓬萊の珠の枝</p> <p>第7回 火鼠の皮衣</p> <p>第8回 龍の頸の玉</p> <p>第9回 燕の子安貝</p> <p>第10回 御狩のみゆき</p> <p>第11回 天の羽衣</p> <p>第12回 富士の煙</p> <p>第13回 『竹取物語』の出典考証</p> <p>第14回 『竹取物語』の享受</p> <p>第15回 その他の前期物語</p>
授業概要	作品を輪読します。
テキスト	室伏信助訳注『竹取物語』（角川ソフィア文庫）、629円（本体価格）
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	『竹取物語』は『源氏物語』に「物語の出できはじめの親」と紹介されます。平安文学の読解は古典研究の基盤です。代表的な作品の読解を通して古典文学に親しみ、基本的な研究・鑑賞の方法を身につけます。積極的な授業への参加を望みます。
評価方法	レポート（80%）、授業への参加の度合い（20%）で評価する。
参考文献	新編日本古典文学全集『竹取物語・伊勢物語・大和物語・平中物語』小学館 上坂信男『竹取物語全評釈』右文書院
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	2	選択必修
担当教員			
齋藤 奈美			

授業のテーマ及び到達目標	1. 平安時代の物語文学を理解するための基礎的な知識を身につける。 2. 辞書などを使って調べ、読解する力を身につける。
授業計画	<p>第1回 『源氏物語』概説①（「成立と作者」）</p> <p>第2回 『源氏物語』概説②（「『源氏物語』の構造」「並びの巻・帚木三帖」）</p> <p>第3回 「夕顔」巻講読 「夕顔」巻までの物語の解説 「帚木」巻冒頭と、「夕顔」巻末尾の照応について</p> <p>第4回 「夕顔」巻講読 「五条の夕顔の家」 （物語の発端―謎の呈示）</p> <p>第5回 「夕顔」巻講読 「光源氏と夕顔の贈答歌」 （「古今集」歌と夕顔の歌の解釈）</p> <p>第6回 「夕顔」巻講読 「光源氏と女性たち」 （夕顔と「六条わたり」の女との比較、「中の品」の女性たち）</p> <p>第7回 「夕顔」巻講読 「惟光の報告、手引き」 （謎解き―光源氏の推理）</p> <p>第8回 「夕顔」巻講読 「光源氏と夕顔、相互の思い」 （素性を探り合う二人の描写、怪奇現象を予感させる表現）</p> <p>第9回 「夕顔」巻講読 「八月十五夜の逢瀬」 （怪奇現象を予感させる表現、和歌の解釈）</p> <p>第10回 「夕顔」巻講読 「物の怪と女の急死」① （平安時代の「物の怪」と紫式部の「物の怪」観）</p> <p>第11回 「夕顔」巻講読 「物の怪と女の急死」② （怪奇現象の詳細な描写を読む）</p> <p>第12回 「夕顔」巻講読 「光源氏の悲しみ・苦しみ」 （光源氏の心情表現を読み解く）</p> <p>第13回 「夕顔」巻講読 「夕顔の素性」 （大団円―全ての謎の解消）</p> <p>第14回 「夕顔」巻講読 「夕顔追悼」 （情景描写と回想）</p> <p>第15回 「夕顔」巻講読 「その後」 （物の怪の正体、「帚木三帖」の結び）</p>
授業概要	『源氏物語』の「夕顔」巻を講読します。和歌、語句、表現などを解説し、物語を逐語的に解釈した上で、解釈上の問題点や、巻の構想との関わりなどを考察します。
テキスト	玉上琢彌訳注『源氏物語』第1巻（角川ソフィア文庫）税込価格864円
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	不審な隣家とそこに住む謎の女、互いに素性を明かさぬままの逢瀬、某の院の妖物出現。物語は、光源氏の目・心情を通して語られていきます。巧みな物語展開、妖しく謎めいた描写は、現代の推理小説やサスペンスに通じるところがあり、楽しく読めることと思います。毎回、各自の解釈や感想、疑問を書いてもらい授業に反映させる予定です。予習の上、出席して下さい。
評価方法	授業への参加度と提出物（30%）、学期末の筆記試験（70%）
参考文献	
備考	

講義科目名称：国文学講読八（10280）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	2	選択必修
担当教員			
佐々木 紀一			

授業のテーマ及び到達目標	『平治物語』を読み解き、その魅力を知ると共に、その成立について学びます。		
授業計画	第1回	導入	平治の乱の歴史的背景
	第2回		平治物語の成立・諸本・作者像、対象史料について
	第3回	卷上講読一	不用者信頼と大学者信西
	第4回	卷上講読二	（焼討と信西最後の謎、その解明）
	第5回	卷上講読三	清盛・重盛の造形
	第6回	卷上講読四	物語の転機（光頼諫言・天皇脱出の虚実）
	第7回	卷上講読五	（信頼像の瓦解と悪源太の登場）
	第8回	卷中講読一	（重盛と義平の激突）
	第9回	卷中講読二	（六波羅の決選と源氏の敗北）
	第10回	卷中講読三	（源氏壊走）
	第11回	卷中講読四	（義朝の最期、頼朝の捕縛）
	第12回	卷下講読一	（義平の潜伏と刑死、怨霊化）
	第13回	卷下講読二	（頼朝助命、配流）
	第14回	卷下講読三	（常盤の苦衷）
	第15回	卷下講読四	（源氏開運）
授業概要	平治の乱にもとづいた本作品三巻は、歴史的事件に基づきながら、藤原信頼、信西等の造型に見られる様に、物語としての飛躍があります。授業では単に意味を取るのではなく、平治物語の諸本（内容が異なる本、陽明本・九条本、『平治物語絵詞』、金刀比等本）間の比較、他物語（『平家物語』・舞の本）との比較を通じて、立体的に物語を精読します。		
テキスト	コピーを配ります。		
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	歴史資料が不足してゐる為、平治の乱の真相は不明な所が多いのです。また源氏の敗北と悲話の部分には、民間伝承の反映が予想され、『保元物語』とも異なります。それでも謎の多い魔術師信西の自害、後白河院の脱出、源氏名刀伝説等、物語として興味深いです。読まうと思へば三日で読める分量ぢやが、ねっつく読むぞ（`谷´；）		
評価方法	レポート（100%）		
参考文献	授業中、適宜指示		
備考			

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	2	選択必修
担当教員			
岡 英里奈			

授業のテーマ及び到達目標	テーマは、〈女中〉から考える日本の近代と文学。古くは「下女」「下婢」とも呼ばれ、現代でのいわゆる「家政婦」「お手伝いさん」である〈女中〉を主人公とした小説を扱い、近代日本の家庭のあり方や女性の生き様を、文学がどのように描いてきたのかについて検討する。同時に、それらの作品が奉仕先の家庭という小さな世界から、より大きな世界である近代日本の歴史を、どのように浮かび上がらせているのかについても考察する。		
授業計画	第1回	ガイダンス、近代日本・文学における〈女中〉概説	
	第2回	坪内逍遙「細君」	
	第3回	島崎藤村「旧主人」	
	第4回	林芙美子「女中の手紙」	
	第5回	吉屋信子「たまの話」	
	第6回	永井荷風「女中の話」	
	第7回	中島京子『女中譚』①リライトの方法	
	第8回	中島京子『女中譚』②1930年代と2000年代の接続	
	第9回	谷崎潤一郎『台所太平記』①第一～五回の読解	
	第10回	谷崎潤一郎『台所太平記』②第六～十回の読解	
	第11回	谷崎潤一郎『台所太平記』③第十一～十五回の読解	
	第12回	谷崎潤一郎『台所太平記』④第十六～二十回の読解	
	第13回	映画『小さいおうち』①作品鑑賞	
	第14回	映画『小さいおうち』②解説	
	第15回	まとめ	
授業概要	授業は、教員による講義を7割、履修者による課題の取り組みやディスカッションを3割として進める。講義やディスカッションの内容を有効に活用し、個々の作品の面白さや、〈女中〉を切り口とした日本の近現代文学全体の面白さについて議論していく。		
テキスト	谷崎潤一郎『台所太平記』（中公文庫）571円＋税、中島京子『女中譚』（朝日文庫）500円＋税、他プリント配布		
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	〈女中〉は、現代では一部を除いて縁遠い存在となりましたが、戦後しばらくまでの日本においてはとても身近な存在でした。その〈女中〉は、家庭の中の「他人」という視点で近代日本の家族の問題をあぶり出すと同時に、女中として働くその人の、個として、あるいは女性としての生き様や、社会・歴史との関係を描き出す、とても興味深い存在です。授業内課題やディスカッションに積極的に取り組みながら、〈女中〉文学の面白味や意義を理解して貰えればと思います。なお、授業で扱う作品は、事前通読必須です。		
評価方法	授業内課題（30%）、ディスカッションでの発言（20%）、期末レポート（50%）によって評価する。		
参考文献	授業中に適宜提示する。		
備考			

講義科目名称：国文学講読十（10300）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	2	選択必修
担当教員			
岡 英里奈			

授業のテーマ及び到達目標	<p>テーマは文学で考える〈仕事〉の百年。〈仕事〉は、私たちが人間として生きていく上で、必ず関わらなければならないものである。この授業では、いくつかのテーマに基づく小説や映画の読解によって、歴史を通じた多様な仕事のあり様や、人間のあり様、社会のあり様について考えを深めることを目指す。講義全体を通して、文学作品を、それが書かれた時代をふまえ、細部の表現に注意しながら読み込む力を養う。</p>
授業計画	<p>第1回 ガイダンス、日本近現代文学における〈仕事〉</p> <p>第2回 「立身出世」の夢とその挫折①正宗白鳥「塵埃」</p> <p>第3回 「立身出世」の夢とその挫折②谷崎潤一郎「小さな王国」</p> <p>第4回 「立身出世」の夢とその挫折③映画『それから』</p> <p>第5回 「立身出世」の夢とその挫折④映画『それから』とまとめ</p> <p>第6回 「職業婦人」の希望と悲しみ①吉屋信子「ヒヤシンス」</p> <p>第7回 「職業婦人」の希望と悲しみ②映画『放浪記』</p> <p>第8回 「職業婦人」の希望と悲しみ③映画『放浪記』とまとめ</p> <p>第9回 「勤勉」と戦争①泉鏡花「海城発電」</p> <p>第10回 「勤勉」と戦争②井伏鱒二「遥拝隊長」</p> <p>第11回 「勤勉」と戦争③坂口安吾「続戦争と一人の女」</p> <p>第12回 現代社会と〈仕事〉①葉山嘉樹「セメント樽の中の手紙」</p> <p>第13回 現代社会と〈仕事〉②庄野潤三「プールサイド小景」</p> <p>第14回 現代社会と〈仕事〉③角田光代「橋の向こうの墓地」</p> <p>第15回 まとめ</p>
授業概要	<p>授業は、教員による講義を7割、履修者による課題の取り組みやディスカッションを3割として進める。講義やディスカッションの内容を有効に活用し、個々の作品の面白さや、〈仕事〉を切り口とした日本の近現代文学全体の面白さについて議論していく。</p>
テキスト	<p>飯田祐子ほか編『文学で考える〈仕事〉の百年』（翰林書房）1900円＋税</p>
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	<p>〈仕事〉は、私たちの生活や人生と切っても切れない、とても身近なテーマであり、現代の「過労」「セクハラ」「パワハラ」問題のように、その時代々々のあり様を映し出す鏡でもあります。それぞれの作品を面白く読みながら、〈仕事〉というものについて考えを深めて貰えればと思います。授業内課題やディスカッションへの積極的な参加を求めますので、対象作品の事前通読を必須とします。授業で扱う以外にも、様々な作品を日頃から読む・観るように心がけて下さい。</p>
評価方法	<p>授業内課題（30%）、ディスカッションでの発言（20%）、期末レポート（50%）によって評価する。</p>
参考文献	<p>授業中に適宜提示する。</p>
備考	



講義科目名称：国文学特講一（10410）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	2	選択必修
担当教員			
岩原 真代			

授業のテーマ及び到達目標	上代の神話『古事記』の読解を通して、古代人の精神と物語の表現構造を探究する。		
授業計画	第1回	『古事記』概説	
	第2回	上代文学史	
	第3回	序文	
	第4回	序文	
	第5回	伊邪那岐の命と伊邪那美の命	
	第6回	天の岩屋戸神話（死と再生）	
	第7回	天照大神と須佐男の命	
	第8回	大国主の命	
	第9回	天照大神と大国主の神	
	第10回	邇邇芸の命	
	第11回	天孫降臨神話（祭りと神話）	
	第12回	日子穗穗出見の命	
	第13回	神武天皇	
	第14回	崇神天皇	
	第15回	まとめ	
授業概要	『古事記』の輪読を通して作品理解を深める。		
テキスト	中村啓信訳注『新版 古事記 現代語訳付き』（角川ソフィア文庫）定価1,160円（本体価格）		
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	上代文学作品は後の時代の作品にも大きな影響をもたらします。神話の世界や和歌の発生を理解し、文学の基盤を学びましょう。		
評価方法	授業への参加の度合い（20%）とレポート（80%）で評価する。		
参考文献	『新編日本古典文学全集 古事記』小学館 西郷信綱『古事記注釈』全8巻、ちくま学芸文庫		
備考			

講義科目名称：国文学特講二（10420）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	2	選択必修
担当教員			
岩原 真代			

授業のテーマ及び到達目標	『伊勢物語』の調査・研究を通して、物語の表現構造と主題を探究する。 『伊勢物語』の享受状況から、文学史上の意義を理解する。
授業計画	<p>第1回 前期物語概説</p> <p>第2～4回 『伊勢物語』の主人公とその時代</p> <p>第5回 初段と最終段（研究方法の説明）</p> <p>第6回 二条后章段</p> <p>第7回 女を盗む話</p> <p>第8回 東下り章段</p> <p>第9回 惟喬親王章段</p> <p>第10回 伊勢斎宮章段</p> <p>第11回 翁章段・媼の段</p> <p>第12回 運命を嘆く段</p> <p>第13回 肉親の情の段</p> <p>第14回 文学史的位置付け・享受史</p> <p>第15回 『伊勢物語』の原文読解（変体仮名の読み方）</p>
授業概要	平安時代の歌物語『伊勢物語』を、担当者を決めて読解します。全125段の物語は、いくつかの章段で構成されており、各章段の特色と意義を検証することで、作品の内容理解が深まります。
テキスト	石田穰二訳注『伊勢物語』（角川ソフィア文庫）定価778円
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	『伊勢物語』の昔男は、都で多くの人々と交流し、また、都を離れて旅をします。都と鄙、褻（ケ）（日常）と晴（非日常）の場で生み出される物語を、人物の関係性や和歌を通して味読し、作品理解を深めます。
評価方法	授業における積極的な参加度（30%）、レポートによる理解度（70%）で評価します。
参考文献	『新編日本古典文学全集 竹取物語・伊勢物語・大和物語・平中物語』小学館 竹岡正夫『伊勢物語全評釈 古注釈十一種集成』右文書院 鈴木日出男編『別冊国文学 竹取物語伊勢物語必携』學燈社、1988年
備考	

講義科目名称：国文学特講三（10430）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	2	選択必修
担当教員			
佐々木 紀一			

授業のテーマ及び到達目標	将門記と将門伝承
授業計画	<p>第1回 導入 将門伝承の意義 怪物か英雄か</p> <p>第2回 史実としての将門の乱</p> <p>第3回 『将門記』の成立・諸本・表現・作者</p> <p>第4回 『将門記』講読一（冒頭～一族との私闘）</p> <p>第5回 『将門記』講読二（将門恩赦～再戦）</p> <p>第6回 『将門記』講読三（戦乱の拡大）</p> <p>第7回 『将門記』講読四（新皇即位～敗死）</p> <p>第8回 『将門記』近似文献（扶桑略記・閑寂物語集他）</p> <p>第9回 平家物語と将門の乱・『将門記』</p> <p>第10回 将門伝説一（神仏の調伏説話の成立と展開）</p> <p>第11回 関東武家の将門像（千葉氏・相馬氏の伝承を中心に）</p> <p>第12回 将門伝説の文学的展開（秀郷絵巻・草子）</p> <p>第13回 将門鉄身伝説—世界的な鉄人退治伝承の一として</p> <p>第14回 将門分身伝説の展開</p> <p>第15回 相論将門伝承とその成立</p>
授業概要	平安中期関東で挙兵、終に新皇に即位した平将門は、当然のことながら、日本史上、最悪の謀叛人となり、中世を通じて、怪物として変容を遂げます。一方で関東では英雄として崇拝される向きがあり、多様で豊かにその人物像が展開していきます。本授業では最初の戦争記録文学とも言へる『将門記』を中心に、説話・軍記・物語といった諸資料から、豊かな中世の想像力を探ります。
テキスト	コピーを配ります。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	不死身の鉄身将門はどのように生まれたのか？虚実混在の中世歴史伝承は広く、深いです。
評価方法	レポート（100%）
参考文献	平凡社東洋文庫『将門記』、新撰日本古典文庫『将門記』、新編日本古典文学全集『将門記他』 村上春樹『平将門伝説』
備考	

講義科目名称：国文学特講四（10440）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	2	選択必修
担当教員			
梅津 保一			

授業のテーマ及び到達目標	松尾芭蕉紀行文の最高峰「おくのほそ道」について、資料と解説により、芭蕉が体験的事実からどのようにして詩的幻想の世界を描き出していたか、その創作の秘密を探る。		
授業計画	第1回	『おくのほそ道』への誘い	
	第2回	松尾芭蕉の生涯	
	第3回	『おくのほそ道』旅立ち～日光	
	第4回	『おくのほそ道』那須野～遊行柳	
	第5回	『おくのほそ道』白河の関～信夫の里	
	第6回	『おくのほそ道』飯塚の里～宮城野	
	第7回	『おくのほそ道』壺の碑～瑞巖寺	
	第8回	『おくのほそ道』石の巻～尿前の関	
	第9回	『おくのほそ道』尾花沢～最上川	
	第10回	『おくのほそ道』出羽三山～酒田	
	第11回	『おくのほそ道』象潟～越中路	
	第12回	『おくのほそ道』金沢～山中温泉	
	第13回	『おくのほそ道』全昌寺～永平寺	
	第14回	『おくのほそ道』福井～大垣	
	第15回	松尾芭蕉の終焉	
授業概要	『おくのほそ道』の原文を補助プリント（資料）を活用して読解します。		
テキスト	角川書店編『おくのほそ道（全）』（角川ソフィア文庫）		
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	テキストを理解するための補助プリントを配布して、予習・復習に資したい。		
評価方法	講義の感想（毎回）、レポート「歩く見る聞く おくのほそ道」、テストの成績を総合的に評価する。		
参考文献			
備考			

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	2	選択必修
担当教員			
馬場 重行			

授業のテーマ及び到達目標	①自明のことと思われがちな文学の「読み」の問題を改めて問い直します。 ②「語り」の問題について、考察してみたいと思います。
授業計画	<p>第1回 文学という表現手段の現代的な意味についての概説 「語り」を中心に、現代日本の文学作品の意味について解説。 小説の読み方／読まれ方について概説。</p> <p>第2回 文学の〈読み方／読まれ方〉という課題についての概説 文学作品を読むための基本的な姿勢を解説。</p> <p>第3回 「公然の秘密」 「公然の秘密」（安部公房）の「語り」について解説。物語内容の理解に止まらず、語り手がどう語っているか、その意図はどこにあるのかといった「語り」の問題点を一緒に考える。以下、同様。</p> <p>第4回 「蠅」 「蠅」（吉行淳之介）の「語り」について解説。</p> <p>第5回 「おにたのぼうし」 「おにたのぼうし」（あまんきみこ）の「語り」について解説。</p> <p>第6回 「鏡」 「鏡」（村上春樹）の「語り」について解説。</p> <p>第7回 「セメント樽の中の手紙」 「セメント樽の中の手紙」（葉山嘉樹）の「語り」について解説。</p> <p>第8回 「キャラメル工場から」 「キャラメル工場から」（佐多稲子）の「語り」について解説。</p> <p>第9回 「ざくろ」 「ざくろ」（川端康成）の「語り」について解説。</p> <p>第10回 「Kの昇天」 「Kの昇天」（梶井基次郎）の「語り」について解説。</p> <p>第11回 「山月記」 「山月記」（中島敦）の「語り」について解説。</p> <p>第12回 「パン屋再襲撃」 「パン屋再襲撃」（村上春樹）と、これを映画化した山川直人の映像作品とを比較検討し、文学と映像表現の関係について解説。</p> <p>第13回 「いちょうの実」 「いちょうの実」（宮沢賢治）と、これを漫画化した大島弓子の作品とを比較検討し、文学と漫画との関係について解説。</p> <p>第14回 「列車」 「列車」（太宰治）の「語り」について解説し、これまでの講義の概要を再確認する。</p> <p>第15回 総括 文学作品を読むとはどういう行為かについて解説し、講義を総括する。</p>
授業概要	児童文学から現代小説まで、幅広い作品を素材に、小学校から高校に至る教育現場との関係を中心に、映像、漫画など、他のメディアと文学の関係も視野に入れつつ、文学作品を読むことの意味について考えてみたいと思います。
テキスト	プリント配布。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	短篇作品の「読み」を中心とした講義を予定しています。毎回、作品を読みますので、積極的に授業に参加して下さい。時には、意見を求める（レポート等）場合もあります。なるべく興味・関心を引くように、時事的話題を適宜取り入れて講義を進めていくつもりです。
評価方法	授業への積極的な参加度（50%）、期末レポート（30%）、小レポート（20%）
参考文献	講義の中で適宜紹介予定。
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	2	選択必修
担当教員			
山本 淳			

授業のテーマ及び到達目標	近世地方語文献について国語学的に講読する。到達目標は以下の2点。 Ⅰ いわゆる古典文学の文体とは異なる文章体を取り扱うため、それぞれの文章様式に馴れること Ⅱ 文章のアウトラインを掴みながら「読む」ことに習熟すること
授業計画	<p>第1回 導入 「地方語文献」について説明する</p> <p>第2回 『雑兵物語』について 『雑兵物語』概説</p> <p>第3回 『雑兵物語』の諸本について 伝存する本文の説明</p> <p>第4回 『雑兵物語』を読む①（文末表現） 文末表現に注意しながら本文を読む</p> <p>第5回 『雑兵物語』を読む②（東国地方語） 東国地方特有の表現について注意しながら読む</p> <p>第6回 洒落本『遊子方言』について 『遊子方言』概説</p> <p>第7回 『遊子方言』を読む①（登場人物の言葉遣い） 登場人物の言葉遣いの違いについて注意しながら読む</p> <p>第8回 『遊子方言』を読む②（『雑兵物語』との比較） 位相的観点から『雑兵物語』の表現上の差異性について検討する</p> <p>第9回 洒落本『真女意題』について 『真女意題』概説</p> <p>第10回 『真女意題』を読む①（登場人物の言葉遣い） 登場人物の言葉遣いの違いについて注意しながら読む</p> <p>第11回 『真女意題』を読む②（方言描写について） 作中の登場人物「国侍」の言葉遣いについて検証する</p> <p>第12回 庄内郷土本『箴の千言』について 庄内郷土本について概説する</p> <p>第13回 『箴の千言』を読む①（庄内方言） 庄内方言について検討する</p> <p>第14回 『箴の千言』を読む②（登場人物の言葉遣い） 作中の特定人物の言葉遣いについて検証する</p> <p>第15回 まとめと口頭試問についての説明 14回分の講述内容をさらい、前期試験期間中に実施する口頭試問について説明する</p>
授業概要	授業担当者による講読と、受講生自らによる講読と、併せて行います。受講生による講読では、テキストを音読し、概要について説明を求めることとします。
テキスト	必要に応じて印刷して配布いたします。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	担当者による講読においては、トピックごとに整理して読むこととし、ついで受講生にも担当範囲を決めて読む練習をすることで、一方的な授業の進め方にならないように配慮したい。
評価方法	前期試験期間中に行う口頭試問によって評価する(100%)。
参考文献	『日本語学研究事典』（明治書院） 『日本語大事典』（朝倉書店） 迫野虔徳『文献方言史研究』（清文堂書店） ほか
備考	

講義科目名称：国語学講読二（10520）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	2	選択必修
担当教員			
高橋 永行			

授業のテーマ及び到達目標	方言学の入門的講義をします。現実社会（リアル）で使われる方言と、創作物でみられる方言（ヴァーチャル）を対比的に学び、現代日本語の多様なすがたを理解することを目的にします。
授業計画	<p>第1回 導入 方言とは</p> <p>第2回 地図から見える地域差 方言の区画と東西差</p> <p>第3回 方言圏論 柳田国男とことばの歴史</p> <p>第4回 方言の調査と研究法 社会の変化から見える地域差</p> <p>第5回 共通語と方言</p> <p>第6回 伝統方言の現在 中間方言と新方言</p> <p>第7回 方言から見える日本の社会</p> <p>第8回 ことばの使い分け 社会的位置づけの変遷</p> <p>第9回 リアル方言とヴァーチャル方言について 高知と東京</p> <p>第10回 ヴァーチャル方言1 岐阜と東京</p> <p>第11回 ヴァーチャル方言2 岩手と東京</p> <p>第12回 方言コンプレックスの時代 秋田、出雲、東京</p> <p>第13回 方言イメージの形成</p> <p>第14回 方言の活用 コンプレックスから、スタイル・コスプレへ</p> <p>第15回 まとめと試験</p>
授業概要	現代の方言について図表や映像等をもとに学びます。方言は地域社会を写す鏡です。可視化した資料を読み解き、ことばの仕組み、コミュニケーションのあり方などを考えてみましょう。
テキスト	木部暢子他『方言学入門』三省堂 1,800円＋税 さわらび会購買部で販売します。プリントを併用します。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	身近にあるが、気づきにくい存在の方言を観察することの「おもしろさ」や「新発見」があればよいと思います。自身のことばとよその出身地の友人のことばの違いに気づき、自身のことばを内省できるようにしましょう。継続受講を求めます。なお、受講に際しては多色のマーカー、色鉛筆を準備してください。また地理の知識が必須なので、高校までに使っていた社会科の日本地図帳があると便利です。
評価方法	試験80%、授業への参加度20%。
参考文献	
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	2	選択必修
担当教員			
山本 淳			

授業のテーマ及び到達目標	手紙文の様式、使われる語の性質について、理解を深めることをテーマとし、到達目標は以下4点とする。 Ⅰ 近世書状(私的文章)に使われる待遇表現について理解する Ⅱ 古典語と近代語との間での意味・用法差について理解する Ⅲ 原本の影印資料に触れ、連綿体の文字が解読できる Ⅳ 受講生による「読み」の発表を通じ聴取者相互に読み深める
授業計画	<p>第1回 消息文の様式(導入) 授業計画、評価方法の説明、「変体かな」「草書体」を解読することについて、近世書簡文の諸相について説明する</p> <p>第2回 藤井高尚の事蹟と『消息文例』について 国学者としての藤井高尚の業績について説明する</p> <p>第3回 本居宣長による序文と鳥越常成による跋文を読む 本居宣長との、また鳥越常成との、それぞれの関係性を捉えた後に、序跋を読む</p> <p>第4回 『消息文例』凡例を読む 『消息文例』執筆の動機ならびに狙いとるするところを理解する</p> <p>第5回 「文におのが事を言ふ例」 書き言葉での自称の表現について理解する</p> <p>第6回 「文にさきの人の事を言ひ遣る例」 書き言葉での対称の表現について理解する</p> <p>第7回 「候ふ 侍る」 丁寧語「侍り」と「候ふ」の消長について理解する</p> <p>第8回 「思ひたまへ」 古典講読の際の躓きとなり易い、二つの敬語動詞「たまふ」について、意味・用法の相違点を理解する</p> <p>第9回 「申す」「聞こゆ」 二つの謙譲語動詞を「関係規定性」の観点からその差異について理解する</p> <p>第10回 「せ させ」 尊敬の助動詞の使い方について理解する</p> <p>第11回 「奉る」 謙譲語動詞の生成と展開について理解する</p> <p>第12回 「御」 中古における敬語接頭辞の使われ方について理解する</p> <p>第13回 「仕うまつる」「まゐらせ まゐる」 「進上スル」意の謙譲語の使い方について理解する</p> <p>第14回 「御覧ず」「ものす」 漢語由来の尊敬動詞と手紙文に多用される「ものす」について理解する</p> <p>第15回 まとめと口頭試問についての説明 読み来たった箇所の要点をさらい、試験期間中に実施する口頭試問の方法について説明する</p>
授業概要	藤井高尚『消息文例』上巻を採り上げて、併せて下巻の関連事項も取り扱いながら、原文を読み、解説を行う。
テキスト	和泉書院影印叢刊『消息文例』（本体価格2,000円＋税）
受講生へのメッセージ(授業評価を踏まえた方針など)	担当者による講読においては、トピックごとに整理して読むこととし、ついで受講生にも担当範囲を決めて読む練習ならびに発表を行うことで、一方的な授業の進め方にならないように配慮したい。
評価方法	「読み」発表の成果による評価(40%) 後期試験期間中に行う口頭試問による評価(60%)
参考文献	『岩波講座日本語4敬語』(岩波書店) 『講座国語史5敬語史』(大修館書店) 『国語学叢書13敬語』(東京堂出版)
備考	



講義科目名称：国語学講読四（10540）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	2	選択必修
担当教員			
高橋 永行			

授業のテーマ及び到達目標	辞書の成り立ちを通して、言語史の基礎的素養を身に付けましょう。		
授業計画	第1回	導入 国語史の時代区分と辞書史の時代区分	
	第2回	言語生活史	
	第3回	古辞書 古代 草創期 古代期の概要 音義書と空海	
	第4回	古辞書 古代 形成期 1 漢字と辞書、和名抄	
	第5回	古辞書 古代 形成期 2 名義抄	
	第6回	古辞書 古代 形成期 3 発音と辞書 国語研究	
	第7回	古辞書 中世 展開期 1 節用集	
	第8回	古辞書 中世 展開期 2 キリシタン資料	
	第9回	古辞書 近世 普及期 1 近代 3 大國語辞書	
	第10回	古辞書 近世 普及期 2 国学と国語研究	
	第11回	古辞書 近世 普及期 3 方言と外国語との関連	
	第12回	近代国語辞書 1 国語辞書の理念と近代化の概要	
	第13回	近代国語辞書 2 標準語と国語辞書 上田万年 大槻文彦	
	第14回	近代から現代へ 辞書から辞典へ	
	第15回	まとめ試験	
授業概要	平安時代から明治時代までの辞書史を駆け足で巡ります。日本語の歴史の概要を学びます。		
テキスト	沖森卓也編『図説 日本の辞書』おうふう 1,800円＋税。さわらび会購買部で販売します。多数のプリントを併用します。ファイルを用意して各自綴じてください。		
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	言語生活の模範とされる辞書がどのように生まれたのか、日本人の生活や文化との関わりから一緒に考えてみましょう。歴史分野の基礎知識の定着を目指します。		
評価方法	試験80%、授業への参加度20%。		
参考文献			
備考			

講義科目名称：国語学特講（10550）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	2	選択必修
担当教員			
山本 淳			

授業のテーマ及び到達目標	国語学・日本語学の全般的な知識を高めるために以下の目標を設定して講述する I 「国語学・日本語学」とはどのような領域の学問か、全体像を把握する II 前期開講「国語学概論」の内容を承け、日本語学の基礎的な知見をより確かなものにする		
授業計画	第1回	日本語の音声・音韻	
	第2回	日本語の標準アクセント	
	第3回	日本語の音韻史	
	第4回	日本語の文字	
	第5回	日本語の語彙 とくに語種・意義分類について	
	第6回	日本語の語彙 とくに辞書の話	
	第7回	日本語の敬語とその歴史	
	第8回	日本語の文法学説	
	第9回	文論	
	第10回	品詞論	
	第11回	日本語の文法史	
	第12回	日本語文章の諸相	
	第13回	日本語の文体	
	第14回	日本語の方言と標準語 方言概説	
	第15回	日本語の方言と標準語 方言分布について	
授業概要	テキストおよび配付資料を基に国語学・日本語学の研究分野についての基礎的・全般的内容を講述する。テーマごとに簡単なペーパーテストを行い、受講生の理解度を確認しながら授業を進める。		
テキスト	藤田保幸著『緑の日本語学教本』・A5判・並製・カバー装（緑）・171頁・定価1,365円		
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	編入学希望者で、編入学試験に日本語学関連の専門科目が課される方は受講なさるとよいと思います。学年指定はありませんが、履修はぜひ2年次でお願いしたいと思います。各回に行う試験が理解の助けになったとの意見がありましたので、今年度もテーマごとに試験を行います。		
評価方法	毎時間に実施する小テストによる評価(100%)		
参考文献	『日本語学研究事典』（明治書院） 『日本語学キーワード事典』（朝倉書店） 『日本語百科大事典』（大修館書店）		
備考			

講義科目名称：日本語文書・表現プログラム（10560）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
集中	1・2	2	選択必修・教職必修
担当教員			
田中 宣廣			

授業のテーマ及び到達目標	①これから社会に出るために必要な文書の作成法や使用法（主な該当回：[1]～[5]，[15]） ②《この授業の中心課題》パソコンを使った文章作成方法（主な該当回：[6]～[14]）		
授業計画	第1回	講義プログラムの説明 / 社会的「文書」作成能力の大切さ＝目的別コミュニケーションツール使用法	
	第2回	「履歴書」作成法	
	第3回	就職志望動機文・エントリーシート，編入学志望理由文の構成法	
	第4回	「手紙」の書き方と発送，「Eメール」の構成法と送信	
	第5回	就職活動における企業と学生との関わり方	
	第6回	パソコンによる論文やレポートの作成学習の意義	
	第7回	文書作成における，パソコン利用のメリットとその活用法	
	第8回	文章の階層構造とその表示法	
	第9回	社会人のコミュニケーション能力～人に分からせる文章構成法	
	第10回	パソコン作成の文書での図表の作成と効果的提示法	
	第11回	パソコン作成の文書のファイル管理やバックアップの重要性	
	第12回	入門的學生論文の構成	
	第13回	パソコンで論文やレポートを作成するときの基本操作＋日本語のローマ字	
	第14回	論文やレポートにおける注釈の効果的使用法	
	第15回	まとめ：社会人となる心構え～インターンシップ活用法	
授業概要			
テキスト	荻野綱男・田野村忠温編，田中宣廣他著（2011）『講座ITと日本語研究 [1] コンピュータ利用の基礎知識』（明治書院）ISBN：9784625434389定価：¥2,592-。（本体¥2,400-.+税）。 その他，教員作成資料を使用します。		
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	毎時限ごとに，「レポートシート」に記入して提出していただき，出欠や理解度を確認します。		
評価方法	「レポートシート」の記入内容と学習姿勢（出席，他）によります。試験やレポートは課しません。		
参考文献			
備考			

講義科目名称：漢文学概説（10600）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	2	選択・教職必修
担当教員			
渡部 東一郎			

授業のテーマ及び到達目標	<p>&lt;授業のテーマ&gt; 漢文学入門</p> <p>&lt;到達目標&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・漢文を訓読によって解釈するために必要な基礎知識を身に付ける。</li> <li>・漢文学が日本語や日本人に与えた影響について知見を深める。</li> </ul>
授業計画	<p>第1回 ガイダンス</p> <p>第2回 漢文の定義と漢字の基礎知識</p> <p>第3回 漢語(熟語)の基礎知識</p> <p>第4回 漢文の基本構造と訓読法</p> <p>第5回 句法の基本型：再読文字・受身形・使役形</p> <p>第6回 句法の基本型：疑問形・反語形</p> <p>第7回 句法の基本型：比較形・仮定形・抑揚系</p> <p>第8回 句法の基本型：否定形</p> <p>第9回 句法の基本型：限定形・詠嘆形・倒置形</p> <p>第10回 近体詩の修辞法</p> <p>第11回 日本人と漢文学：上代、平安</p> <p>第12回 日本人と漢文学：平安、鎌倉・室町</p> <p>第13回 日本人と漢文学：江戸前期</p> <p>第14回 日本人と漢文学：江戸後期、明治以降</p> <p>第15回 まとめ</p>
授業概要	10回目までは、漢文を訓読によって解釈するために必要な基礎事項を学んだ上で練習問題に取り組んでもらい、基礎知識の定着を図ります。11回目以降は、日本における漢文学の歴史を概観し、漢文学が日本語や日本人に与えた影響について考えていきます。
テキスト	特に用いず、必要に応じてプリントを配布します。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	高校での既習・未習を問わず、この機会に漢文学の基礎をしっかりと身に付けたいと考える学生の積極的な受講を期待します。
評価方法	学期末の試験(80%)、授業への参加度(20%)をあわせて評価します。
参考文献	
備考	

講義科目名称：漢文学講読一（10610）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	2	選択
担当教員			
渡部 東一郎			

授業のテーマ及び到達目標	<p>&lt;授業のテーマ&gt; 『史記』の世界</p> <p>&lt;到達目標&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・訓点(返り点・送りがな)付きの漢文の正確な書き下し、解釈ができるようになる。</li> <li>・司馬遷の歴史描写の特色と中国古代の社会や文化について理解を深める。</li> </ul>
授業計画	<p>第1回           ガイダンス</p> <p>第2～15回     『史記』淮陰侯列伝講読</p>
授業概要	項羽と劉邦の楚漢の争いを漢の勝利へと導いた立役者の一人であり、「韓信の股くぐり」や「国士無双」、「背水の陣」などの故事成語で有名な武将、韓信の生涯を、司馬遷『史記』の淮陰侯列伝をテキストとして講読していきます。
テキスト	プリントを配布します。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	開始から数回は教員主導で読み進めていきますが、要領が分かってきた頃合いを見計って、受講者にも訓読や現代語訳に参加してもらおうつもりです。訓読能力を高めたい、或いはその必要がある学生の積極的な受講を期待します。なお、中型漢和辞典(相応の電子辞書も可)を毎回持参して下さい。
評価方法	学期末の試験(60%)、授業での発言や参加度(40%)をあわせて評価します。
参考文献	
備考	

講義科目名称：漢文学講読二（10620）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	2	選択
担当教員			
渡部 東一郎			

授業のテーマ及び到達目標	<p>&lt;授業のテーマ&gt; 唐代伝奇小説の世界</p> <p>&lt;到達目標&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・訓点(返り点・送りがな)付きの漢文の正確な書き下し、解釈ができるようになる。</li> <li>・現代とは異なる、当時の人々のものの考え方や感じ方について理解を深める。</li> </ul>
授業計画	<p>第1回            ガイダンス</p> <p>第2～3回        「離魂記」</p> <p>第4～6回        「人虎伝」</p> <p>第7回            「板橋三娘子伝」</p> <p>第8～9回        「定婚店」</p> <p>第10～12回     「杜子春伝」</p> <p>第13～15回     「枕中記」</p>
授業概要	芥川龍之介の「杜子春」や中島敦の「山月記」などの日本の近代文学にも影響を与えた、唐代の文人の手に成る短編小説、「唐代伝奇」の中から数篇を取り上げ、講読していきます。
テキスト	プリントを配布します。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	開始から数回は教員主導で読み進めていきますが、要領が分かってきた頃合いを見計って、受講者にも訓読や現代語訳に参加してもらつつもりです。訓読能力を高めたい、或いはその必要がある学生の積極的な受講を期待します。なお、中型漢和辞典(相応の電子辞書も可)を毎回持参して下さい。
評価方法	学期末の試験(60%)、授業での発言や参加度(40%)をあわせて評価します。
参考文献	
備考	

講義科目名称：漢文学特講（10650）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	2	選択
担当教員			
渡部 東一郎			

授業のテーマ及び到達目標	<p>&lt;授業のテーマ&gt; 中国文学史</p> <p>&lt;到達目標&gt; 先秦から唐代に至る中国文学の歴史を学ぶことを通して、中国文学各ジャンルの特色とその盛衰についての知識を得、併せて日本の文化・文学に与えた影響について知見を深める。</p>
授業計画	<p>第1回 ガイダンス・序論</p> <p>第2～4回 先秦時代の文学・秦漢の散文</p> <p>第5回 漢代の韻文学</p> <p>第6～9回 魏晋南北朝の文学</p> <p>第10～14回 隋・唐の文学</p> <p>第15回 まとめ</p>
授業概要	テキストに沿いながら、必要に応じて資料を交え、先秦から唐代に至る中国文学の歴史を概観していきます。
テキスト	佐藤一郎[著]『中国文学史』（慶應義塾大学出版社） 1,296円
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	中国文学に興味関心のある学生は勿論、中国文学、文学史に関する知識が必要となる学生の積極的な参加を期待します。
評価方法	学期末のレポート(80%)、授業への参加度(20%)をあわせて評価します。
参考文献	
備考	

講義科目名称：漢文学専門ゼミ一（10660）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	2	選択
担当教員			
渡部 東一郎			

授業のテーマ及び到達目標	<p>〈授業のテーマ〉 実践的な漢文訓読能力を身に付ける。</p> <p>〈到達目標〉 句読点のみ、或いは句読点及び返り点のみの漢文でも正確に訓読、解釈できる。</p>
授業計画	<p>第1回           ガイダンス</p> <p>第2～15回      和刻本『箋註蒙求校本』の会読</p>
授業概要	<p>四年制大学の編入学試験の漢文の問題は、学校によっては句読点、或いは句読点及び返り点しか付されていない文章が出題されるため、それなりの漢文訓読能力が必要になります。授業では和刻本『箋註蒙求校本』を会読していくことを通して実践的な漢文訓読能力を身に付けていきます。</p>
テキスト	<p>プリントを配布する。</p>
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	<p>四年制大学の編入学試験で漢文が出題される学校の受験を考えている学生を主たる対象とする授業ですが、そうでない学生でも漢文をより読めるようになりたいと思う人がいれば受講を熱烈歓迎します。</p>
評価方法	<p>学期末の試験(50%)、授業への参加度(50%)</p>
参考文献	<p>授業内で必要に応じて指示する。</p>
備考	<p>中型漢和辞典(相応の電子辞書も可)を毎回持参してください。</p>



講義科目名称：漢文学専門ゼミ二（10661）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	2	選択
担当教員			
渡部 東一郎			

授業のテーマ及び到達目標	<p>〈授業のテーマ〉 実践的な漢文訓読能力を身に付ける。</p> <p>〈到達目標〉 句読点のみ、或いは句読点及び返り点のみの漢文でも正確に訓読、解釈できる。</p>
授業計画	<p>第1回           ガイダンス</p> <p>第2～9回       和刻本『箋註蒙求校本』の会読</p> <p>第10～15回   編入学試験過去問の演習、解答・解説</p>
授業概要	<p>四年制大学の編入学試験の漢文の問題は、学校によっては句読点、或いは句読点及び返り点しか付されていない文章が出題されるため、それなりの漢文訓読能力が必要になります。授業では和刻本『箋註蒙求校本』を会読していくことを通して実践的な漢文訓読能力を身に付けるとともに、後半には過去問の演習、解答・解説を行います。</p>
テキスト	<p>プリントを配布する。</p>
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	<p>四年制大学の編入学試験で漢文が出題される学校の受験を考えている学生を主たる対象とする授業ですが、そうでない学生でも漢文をより読めるようになりたいと思う人がいれば受講を熱烈歓迎します。</p>
評価方法	<p>学期末の試験(50%) 授業への参加度(50%)</p>
参考文献	<p>授業内で必要に応じて指示する。</p>
備考	<p>中型漢和辞典(相応の電子辞書も可)を毎回持参してください。</p>

講義科目名称：国文学演習二（10720）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	2	4	選択必修
担当教員			
石黒 志保			

授業のテーマ及び到達目標	和歌がなぜ詠まれたのか、その歴史を考える。また、和歌論について歴史を紐解く1つの史料として捉え、自らの問いを立て、考察する力を養う。
授業計画	<p>第1回 前期ガイダンス</p> <p>第2回 中世和歌論について（概説）</p> <p>第3回 藤原俊成『古来風躰抄』上(序文)の輪読及びキーワードの抽出・調査</p> <p>第4回 藤原俊成『古来風躰抄』上(神代～人世～行基・最澄)の輪読及びキーワードの抽出・調査</p> <p>第5回 藤原俊成『古来風躰抄』上(万葉集～古今集～後拾遺集)の輪読及びキーワードの抽出・調査</p> <p>第6回 藤原俊成『古来風躰抄』上(金葉集～千載集)の輪読及びキーワードの抽出・調査</p> <p>第7回 藤原定家『近代秀歌』・『詠歌大概』の輪読及びキーワードの抽出・調査</p> <p>第8回 藤原定家『毎月抄』の輪読及びキーワードの抽出・調査</p> <p>第9回 『新古今和歌集』両序の輪読及びキーワードの抽出・調査</p> <p>第10回 慈円『愚管抄』巻五の輪読及びキーワードの抽出・調査</p> <p>第11回 『明恵上人伝』の輪読及びキーワードの抽出・調査</p> <p>第12回 無住『沙石集』巻第五本（米沢本）の輪読及びキーワードの抽出・調査</p> <p>第13回 無住『沙石集』巻第五末（米沢本）の輪読及びキーワードの抽出・調査</p> <p>第14回 米沢本『百人一首抄』前半の輪読及びキーワードの抽出・調査</p> <p>第15回 米沢本『百人一首抄』後半の輪読及びキーワードの抽出・調査</p>
授業概要	前期は、テキストの読解とキーワードの調査、後期は各自1つ和歌集を選び、問いを立て発表報告し、討論を行います。
テキスト	複写配布します。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	自らの問いを持つことを大事にしたいと思います。和歌が詠まれてきた歴史について、一緒に考えましょう。
評価方法	演習の発表（問いの立て方、論証の仕方、討論の参加等、100%）
参考文献	
備考	

講義科目名称：国文学演習三（10730）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	2	4	選択必修
担当教員			
佐々木 紀一			

授業のテーマ及び到達目標	中世の代表的物語『酒天童子』・『伊吹童子』の内容を読み解き、その成立の諸問題を考察します。		
授業計画	第1回	導入 酒天童子とは何者か？ 伊吹童子諸本 大英博物館本・東洋大本・国会本・赤木本	
	第2回	酒天童子諸本について 香取本・サントリー本・中京大本・呆犬齋本	
	第3回	酒天童子関連物語・伝説の展開	
	第4回	酒天童子発表のため諸道具、発表の形式について	
	第5回	受講生の発表1（伊吹童子対応扇面絵）	
	第6回	受講生の発表2（伊吹童子対応扇面絵）	
	第7回	受講生の発表3（伊吹童子対応扇面絵）	
	第8回	受講生の発表4（伊吹童子対応扇面絵）	
	第9回	受講生の発表5（伊吹童子対応扇面絵）	
	第10回	受講生の発表6（伊吹童子対応扇面絵）	
	第11回	受講生の発表7（伊吹童子対応扇面絵）	
	第12回	受講生の発表8（伊吹童子対応扇面絵）	
	第13回	受講生の発表9（伊吹童子対応扇面絵）	
	第14回	受講生の発表10（酒天童子対応扇面絵）	
	第15回	受講生の発表11（酒天童子対応扇面絵）	
	第16回	受講生の発表12（酒天童子対応扇面絵）	
	第17回	受講生の発表13（酒天童子対応扇面絵）	
	第18回	受講生の発表14（酒天童子対応扇面絵）	
	第19回	受講生の発表15（酒天童子対応扇面絵）	
	第20回	受講生の発表16（酒天童子対応扇面絵）	
	第21回	受講生の発表17（酒天童子対応扇面絵）	
	第22回	受講生の発表18（酒天童子対応扇面絵）	
	第23回	受講生の発表19（酒天童子対応扇面絵）	
	第24回	受講生の発表20（酒天童子対応扇面絵）	
	第25回	受講生の発表21（酒天童子対応扇面絵）	

	<p>第26回 受講生の発表22 (酒天童子対応扇面絵)</p> <p>第27回 受講生の発表23 (酒天童子対応扇面絵)</p> <p>第28回 受講生の発表24 (酒天童子対応扇面絵)</p> <p>第29回 受講生の討論 (酒天童子の物語世界、成立について)</p> <p>第30回 総論—酒天童子とは何者か</p>
授業概要	<p>絵画資料『酒天童子扇面絵』に対応する物語 (前半生『伊吹童子』、後半生と源頼光による退治『酒天童子』) を前期・後期で通読、宛てられた箇所を各自読解し、中世の物語・民俗信仰との関係等の諸問題を考へる発表をします。</p>
テキスト	<p>大英図書館蔵『伊吹童子』・渋川版『酒天童子』</p>
受講生へのメッセージ (授業評価を踏まえた方針など)	<p>中世以降、最近まで源頼光の酒天童子は、子供達や大人にとつても血肉沸き踊る物語でした。その伝統が途絶してゐる現在、改めてこの物語の内容に触れ、楽しむと共に、その危険な魅力に触れ、様々な中世物語や鬼退治の民間伝承との関係について考へていきます。呆犬齋文庫蔵の各種『酒天童子』絵巻・資料をお見せいたします。</p>
評価方法	<p>演習の発表 (100%)</p>
参考文献	<p>佐竹昭広『酒天童子異聞』、高橋昌明『酒天童子の誕生』</p>
備考	

講義科目名称：国文学演習四（10740）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	2	4	選択必修
担当教員			
岡 英里奈			

授業のテーマ及び到達目標	明治期の「深刻小説」、「家庭小説」と呼ばれるジャンルの小説を演習形式で読み解き、その意義や問題について検討していく。これまでの文学史上では〈過渡期の文学〉とみなされ、その範囲でしか評価されてこなかった作品群を改めて読み直すことで、既存の史観にとらわれない、明治文学の豊かさや面白味を再発見していくことを目指す。		
授業計画	第1回	ガイダンス テキスト、年間計画、授業形態について説明	
	第2回	報告者選定、「深刻小説」というジャンルについて概説	
	第3回	「家庭小説」というジャンルについて概説	
	第4回	川上眉山「大さかずき」①基礎事項と内容理解	
	第5回	川上眉山「大さかずき」②議論による読解	
	第6回	泉鏡花「夜行巡査」①基礎事項と内容理解	
	第7回	泉鏡花「夜行巡査」②議論による読解	
	第8回	前田曙山「蝗うり」①基礎事項と内容理解	
	第9回	前田曙山「蝗うり」②議論による読解	
	第10回	田山花袋「断流」①基礎事項と内容理解	
	第11回	田山花袋「断流」②議論による読解	
	第12回	北田薄氷「乳母」①基礎事項と内容理解	
	第13回	北田薄氷「乳母」②議論による読解	
	第14回	広津柳浪「亀さん」①基礎事項と内容理解	
	第15回	広津柳浪「亀さん」②議論による読解	
	第16回	報告者選定、中間レポート・講評	
	第17回	徳田秋声「藪こうじ」①基礎事項と内容理解	
	第18回	徳田秋声「藪こうじ」②議論による読解	
	第19回	小栗風葉「寝白粉」①基礎事項と内容理解	
	第20回	小栗風葉「寝白粉」②議論による読解	
	第21回	江見水蔭「女房殺し」①基礎事項と内容理解	
	第22回	江見水蔭「女房殺し」②議論による読解	
	第23回	樋口一葉「にぎりえ」①基礎事項と内容理解	
	第24回	樋口一葉「にぎりえ」②議論による読解	

	第25回 「深刻小説」の意義について討論
	第26回 徳富蘆花「不如帰」①一～三の内容確認・読解
	第27回 徳富蘆花「不如帰」②四～六の内容確認・読解
	第28回 徳富蘆花「不如帰」③七～十の内容確認・読解
	第29回 「家庭小説」の意義について討論
	第30回 まとめ
授業概要	毎回、報告者とディスカッサント(質問者、議論のまとめ役)を設定し、それぞれの意見を交わし合うことで、各自の読解を深めていく。そのプロセスを繰り返すことで、既存の価値付けにとらわれずに、文学をおもしろく読む力を養っていく。
テキスト	講談社文芸文庫編『明治深刻悲慘小説集』(講談社)1800円+税、徳富蘆花『不如帰』(岩波書店)740円+税
受講生へのメッセージ(授業評価を踏まえた方針など)	作品を読んで、皆さんが面白い、あるいはつまらないと思ったところ、疑問に思ったところを大事にしていきたいと思います。そこにどのような調査や考察を加えていくと、一つの論としてレポートや論文のかたちに見合う(読み)になっていくのか、一緒に学習していきましょう。皆さんそれぞれの視点や意見をもとに授業を組み立てていくので、積極的な態度・発言を期待します。
評価方法	授業中の報告内容(30%)、質疑などの発言(20%)、レポート課題(50%)によって評価する。
参考文献	授業中に適宜提示する。
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	2	4	選択必修
担当教員			
馬場 重行			

授業のテーマ及び到達目標	<p>①自分の「読み」にはられた課題を自己発見し、他にそれを伝えるような工夫をします。</p> <p>②相互の意見交換を通じて、自分と他の人との「読み」の位相を確認し、そこを基点として議論の展開を目指します。</p> <p>③レポートを書くことで自らの「読み」を再確認します。</p> <p>以上を通して、「読み」による＜創造的な自己発見と他者理解＞を手に入れ、自身の課題探求能力を高めることを目指します。</p>
授業計画	<p>第1回 年間計画、文学作品を「読むこと」 発表担当作品等の年間計画を立て、演習形式で小説を「読むこと」の目的と意義について説明。報告者は1週間前にレジメを配布、受講者は作品とレジメを必ず読んで授業に参加する。報告者の問題提起を中心とした質疑応答を行い、特に「語り」の問題を考えることで「作品の意思」を考察する。以下、これを踏襲。</p> <p>第2回 年間計画策定、村上春樹の文学世界について① 表担当作品等の年間計画を策定し、村上春樹の文学世界について解説①。</p> <p>第3回 村上春樹の文学世界について② 村上春樹の文学世界について解説②。</p> <p>第4回 「パン屋再襲撃」 「パン屋再襲撃」を演習形式で読む。</p> <p>第5回 「象の消滅」 「象の消滅」を演習形式で読む。</p> <p>第6回 「ファミリー・アフエア」 「ファミリー・アフエア」を演習形式で読む。</p> <p>第7回 「双子と沈んだ大陸」 「双子と沈んだ大陸」を演習形式で読む。</p> <p>第8回 「ローマ帝国の崩壊・一八八一年のインディアン蜂起・ヒットラーのポーランド侵入・そして強風世界」 「ローマ帝国の崩壊・一八八一年のインディアン蜂起・ヒットラーのポーランド侵入・そして強風世界」を演習形式で読む。</p> <p>第9回 「ねじまき鳥と火曜日の女たち」 「ねじまき鳥と火曜日の女たち」を演習形式で読む。</p> <p>第10回 「レキシントンの幽霊」① 「レキシントンの幽霊」を演習形式で読む①。</p> <p>第11回 「レキシントンの幽霊」② 「レキシントンの幽霊」を演習形式で読む②。</p> <p>第12回 「緑色の獣」 「緑色の獣」を演習形式で読む。</p> <p>第13回 「沈黙」① 「沈黙」を演習形式で読む①。</p> <p>第14回 「沈黙」② 「沈黙」を演習形式で読む②。</p> <p>第15回 「氷男」 「氷男」を演習形式で読む。</p> <p>第16回 「トニー滝谷」 「トニー滝谷」を演習形式で読む。</p> <p>第17回 「七番目の男」① 「七番目の男」を演習形式で読む①。</p> <p>第18回 「七番目の男」② 「七番目の男」を演習形式で読む②。</p> <p>第19回 「めくらやなぎと、眠る女」① 「めくらやなぎと、眠る女」を演習形式で読む①。</p> <p>第20回 「めくらやなぎと、眠る女」② 「めくらやなぎと、眠る女」を演習形式で読む②。</p> <p>第21回 「UFOが釧路に降りる」① 「UFOが釧路に降りる」を演習形式で読む①。</p> <p>第22回 「UFOが釧路に降りる」②</p>

	<p>「UFOが釧路に降りる」を演習形式で読む②。</p> <p>第23回 「アイロンのある風景」① 「アイロンのある風景」を演習形式で読む①。</p> <p>第24回 「アイロンのある風景」② 「アイロンのある風景」を演習形式で読む②。</p> <p>第25回 「神の子どもたちはみな踊る」 「神の子どもたちはみな踊る」を演習形式で読む。</p> <p>第26回 「タイランド」 「タイランド」を演習形式で読む。</p> <p>第27回 「かえるくん、東京を救う」 「かえるくん、東京を救う」を演習形式で読む。</p> <p>第28回 「蜂蜜パイ」① 「蜂蜜パイ」を演習形式で読む①。</p> <p>第29回 「蜂蜜パイ」② 「蜂蜜パイ」を演習形式で読む②。</p> <p>第30回 総括 村上春樹の文学世界を「読むこと」の意味について、全体で討議する。</p>
授業概要	村上春樹の短編小説を用いて、「読み」の意義を、特に「語り」の問題を中心に考えます。
テキスト	『パン屋再襲撃』（村上春樹著、文春文庫）『レキシントンの幽霊』（村上春樹著 文春文庫）、『神の子どもたちはみな踊る』（村上春樹著 新潮文庫） 参考書：『増補版・村上春樹作品研究事典』（村上春樹研究会編 鼎書房）他。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	①毎回、必ず当該作品を読んでくること。②質疑応答に積極的に加わること。③他の人との「読み」の相違を大切に、「読み」の方法を習得すること。昨年まで以上に、発言の交流に工夫を凝らす予定です。「立派な発言」や「正しい答え」は求めません。「一生懸命に読んで、真剣に発言している」姿勢をこれまで以上に大切にします。
評価方法	授業への積極的な参加度（50%）、期末レポート課題（50%）
参考文献	演習の中で適宜紹介予定。
備考	



講義科目名称：国語学演習一（10750）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	2	4	選択必修
担当教員			
山本 淳			

授業のテーマ及び到達目標	近世庶民の言葉について理解することをテーマとして、以下目標2点定める。 Ⅰ いわゆる戯作文学についての理解を深める Ⅱ 江戸時代の板本の様式に馴れつつ、連綿体の文字が解読できる		
授業計画	第1回	幕末期戯作について	
	第2回	感和亭鬼武と十返舎一九	
	第3回	「馬喰街寓居之条」を読む（172頁～174頁）	
	第4回	「馬喰街寓居之条」を読む（175頁～177頁）	
	第5回	「馬喰街寓居之条」を読む（178頁～181頁）	
	第6回	「劇場看取茶漬屋の場」を読む（182頁～185頁）	
	第7回	「劇場看取茶漬屋の場」を読む（186頁～188頁）	
	第8回	「劇場看取茶漬屋の場」を読む（189頁～192頁）	
	第9回	「登愛宕山眺品川沖」を読む（193頁～195頁）	
	第10回	「登愛宕山眺品川沖」を読む（196頁～199頁）	
	第11回	「登愛宕山眺品川沖」を読む（200頁～203頁）	
	第12回	第二編の序文と上の本文（柳原散策）を読む（206～208頁）	
	第13回	第二編上の本文（柳原～神田明神）を読む（209～211頁）	
	第14回	第二編上の本文（佐久間町筋）を読む（212～214頁）	
	第15回	第二編上の本文（料理屋での場面）を読む（215～217頁）	
	第16回	第二編上の本文（神田明神の場面）を読む（218～220頁）	
	第17回	第二編中の本文（神田～湯島）を読む（221～223頁）	
	第18回	第二編中の本文（芝居見物の段）を読む（224～226頁）	
	第19回	第二編中の本文（芝居見物の段のつづき）を読む（227～229頁）	
	第20回	第二編中の本文（下谷仲町の場面）を読む（230～233頁）	
	第21回	十返舎一九筆・第二編下の本文を読む（234～236頁）	
	第22回	十返舎一九筆・第二編下の本文（大道芸見物の場面）を読む（234～236頁）	
	第23回	十返舎一九筆・第二編下の本文（浜田屋の場面）を読む（237～239頁）	
	第24回	十返舎一九筆・第二編下の本文（浜田屋の場面つづき）を読む（240～243頁）	

	第25回	十返舎一九筆・第二編下の本文(講中の場面)を読む(344～247頁)
	第26回	三編の序と本文(横山町薬研堀の場面)を読む(250～253頁)
	第27回	三編の本文(植木屋との一悶着の場面)を読む(254～256頁)
	第28回	三編の本文(両国橋の場面)を読む(257～259頁)
	第29回	三編の本文(蕎麦屋の場面)を読む(260～262頁)
	第30回	三編の本文(蕎麦屋の場面とつづき)を読む(263～264頁)・まとめ
授業概要	感和亭鬼武『旧観帖』初編を採り上げ、板本影印資料で読み進める。また、姉妹編である、十返舎一九『奥州道中之記』とも比較・検討する。	
テキスト	原文をコピーします	
受講生へのメッセージ(授業評価を踏まえた方針など)	各回の発表が励みになったとの意見がありましたので、今年も受講生の発表を中心にして進めます。卒業研究の指導も併せて行います。	
評価方法	授業への参加度(50%)および発表の成果(50%)	
参考文献	中山尚夫『十返舎一九研究』(おうふう) 野村剛史『日本語スタンダードの歴史—ミヤコ言葉から言文一致まで—』(岩波書店) 野村剛史『話し言葉の日本史』(吉川弘文館)	
備考		

講義科目名称：国語学演習二（10760）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	2	4	選択必修
担当教員			
高橋 永行			

授業のテーマ及び到達目標	ことばに関するテーマを選定し、グループや全体での共同作業を通して言語研究の方法を実践的に学びます。		
授業計画	1	前期 導入	
	2	チーム別の企画討論	
	3	新聞記事の選定	
	4	新聞の活用ガイダンス	
	5	チームテーマの決定とプレゼン	
	6	報告書作成の仕方	
	7	章の組み合わせ討論	
	8	ページの割り当て	
	9	ページレイアウトの作成案	
	10	ページ展開の確認	
	11	ページレイアウトの製作	
	12	下書き原稿の作成	
	13	下書き原稿の作成の続き	
	14	グループ内の点検	
	15	グループ間で討論	
	16	前期の振り返りと後期の準備	
	17	後期 導入	
	18	章の内容確認	
	19	下書き原稿の提出	
	20	グループ発表	
	21	グループ発表の修正	
	22	ページごとの修正作業	
	23	原稿のノートへの入れ替え	
	24	完成原稿の執筆要項の確認	
	25	ページごとの清書と修正	

	26	完成原稿の入稿作業
	27	個別研究の発表
	28	報告書の校正作業
	29	一年間の総括
	30	報告書の受け取りと発送
授業概要	演習生をチーム分けし、チームごとおよび全体での討論・作業を体験してことばの研究の基礎を身につけます。言語研究に関する一つの成果を、一冊の報告書にまとめて刊行します。	
テキスト	前年度に刊行した報告書、『現代の日本語研究』2017を配布します。	
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	「新聞と教育」プロジェクトNIEの一環として演習を実施します。毎年、参加者の話し合いで個別テーマを決め、演習成果報告書を作成します。1年間の演習での研究が「形になる」喜びを先輩たちは体験しました。1月に仕上げるために年内に完成原稿を作ります。できたものを手にした「達成感」と「もっとこうすれば…という反省」が必ずあります。その両方とも貴重な「学生」時代の宝です。スケジュールは個人個人で違います。同じチームの仲間とお互いのスケジュールを調整し、また助け合って研究を進めるように心がけましょう。	
評価方法	演習への参加度、課題の作成内容・チームへの貢献度（100%）	
参考文献		
備考		

講義科目名称：文献学演習（10780）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	2	4	選択必修
担当教員			
北口 己津子			

授業のテーマ及び到達目標	図書館や図書館利用の入り口となる児童サービス、児童サービスに欠かすことのできない情報資源である絵本についての理解をはかり、その中に個々人の問題意識を持つ。その問題意識を深めて卒業論文を書くことを目的とする。		
授業計画	第1回	前期オリエンテーション	
	第2回	文章の書き方、要約の仕方	
	第3回	レポートの書き方	
	第4回	CiNii等の使い方	
	第5回	興味のあるテーマに関して発表および話し合い①	
	第6回	興味のあるテーマに関して発表および話し合い②	
	第7回	興味のあるテーマに関して発表および話し合い③	
	第8回	興味のあるテーマに関して発表および話し合い④	
	第9回	興味のあるテーマに関して発表および話し合い⑤	
	第10回	興味のあるテーマに関して発表および話し合い⑥	
	第11回	興味のあるテーマに関して発表および話し合い⑦	
	第12回	興味のあるテーマに関して発表および話し合い⑧	
	第13回	興味のあるテーマに関して発表および話し合い⑨	
	第14回	興味のあるテーマに関して発表および話し合い⑩	
	第15回	前期のまとめ	
	第16回	卒業研究の進め方①テーマの決め方	
	第17回	卒業研究の進め方②スケジュールの立て方	
	第18回	卒業研究の進め方③書き進めるために	
	第19回	文献リストの作り方	
	第20回	卒業研究中間報告①	
	第21回	卒業研究中間報告②	
	第22回	卒業研究中間報告③	
	第23回	卒業研究中間報告④	
	第24回	卒業研究中間報告⑤	

	第25回	卒業研究中間報告⑥
	第26回	卒業研究中間報告⑦
	第27回	卒業研究中間報告⑧
	第28回	卒業研究中間報告⑨
	第29回	卒業研究中間報告⑩
	第30回	1年間のまとめ
授業概要	前期はレポート執筆の基礎と図書館界で話題になっている出来事についてグループ発表を行う。後期は各自の卒業論文中間報告で進める。	
テキスト	プリント配布	
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	受講生全員が卒業論文提出を目標とする。卒論は、図書館に関するもの、情報メディアに関するものどちらでもよい。	
評価方法	授業内での活動・個人課題の成果物（卒業論文・卒業制作）（70%）、授業への参加度（発言・教員への質問等）（30%）	
参考文献		
備考		

講義科目名称：教育文化論演習（10790）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	2	4	選択必修
担当教員			
村瀬 桃子			

授業のテーマ及び到達目標	教育に関して、まず基本事項をおさえた上で、各個人の興味関心に添いつつ、様々な角度から教育問題を考察できるようにしたい。		
授業計画	第1回	オリエンテーション 1年間のゼミの流れと、前期の確認。	
	第2回	教育学関連基本文献の選定と分担 興味のある文献を持ち寄り、選定。	
	第3回	レジュメの書き方 ゼミの発表資料の書き方について知る。	
	第4～15回	文献の講読と発表 文献を分担し、発表する。	
	第16回	オリエンテーション 後期の予定を確認する。	
	第17回	レポート・論文の書き方 短大を卒業する前に、レポートや論文の書き方の最低限のルールを知る（特に卒論・編入希望者は確実に）。	
	第18～19回	卒論構想発表 卒論の構想について発表する（卒論希望者）。	
	第20～27回	個人研究発表 個人研究の発表を行う（卒論を希望しない者が中心となる）。	
	第28～29回	卒論中間発表 卒論の進捗状況について、報告し、検討する。	
	第30回	まとめ 1年間のゼミのまとめを行う。	
授業概要	前期は、教育に関する基本事項をおさえるため、全員で基本文献を読み解いていく。後期は、それぞれの興味関心に添った文献等を読み進めていく予定である（卒論を書く者は卒論の検討を行う）。発表は、基本的に個人とする予定である。		
テキスト	授業内に皆で文献候補を検討、決定した文献。絶版の場合はコピー。		
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	ゼミは学生による自治が基本です。自ら課題を見つけ、学ぶ能力をつけた人を評価します。		
評価方法	発表の完成度（課題設定や分析は適切か等、70%）、演習への参加度（演習中の質問等の発言30%）		
参考文献			
備考			





開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	1・2	4	選択・教職必修（教科：国語）
担当教員			
我彦 芳柳			

授業のテーマ及び到達目標	1. 楷書・行書・草書・隸書・仮名の代表的な古典臨書し、学内展示作品を作成 2. 篆書を学び雅印作成 3. 国語科の書写指導に必要な実技 4. 現代の書・生活の書・実用書の作成
授業計画	<p>第1回 用具・用材について</p> <p>第2回 楷書の基本用筆確認</p> <p>第3回 書写から書道入門</p> <p>第4回 漢字の変遷と書体・楷書の成立</p> <p>第5回 唐の四大家を学ぶ（1）孔子廟堂碑</p> <p>第6回 唐の四大家を学ぶ（2）九成宮醴泉銘</p> <p>第7回 唐の四大家を学ぶ（3）雁塔聖教序</p> <p>第8回 唐の四大家を学ぶ（4）顔氏家廟碑</p> <p>第9回 北魏の書を学ぶ（1）牛けつ造像記</p> <p>第10回 北魏の書を学ぶ（2）鄭羲下碑</p> <p>第11回 楷書の小階 隅寺心教</p> <p>第12回 楷書の小階 隅寺心教</p> <p>第13回 行書の特徴を学ぶ</p> <p>第14回 行書の古典を学ぶ（1）蘭亭序</p> <p>第15回 行書の古典を学ぶ（2）争坐位文稿</p> <p>第16回 篆書を学ぶ 泰山刻石</p> <p>第17回 日本の書三筆三跡を学ぶ</p> <p>第18回 仮名の用筆法を学ぶ</p> <p>第19回 平仮名と変体仮名を学ぶ</p> <p>第20回 平仮名と変体仮名の単体・連綿を学ぶ</p> <p>第21回 仮名の古典を学ぶ（1）高野切第三種</p> <p>第22回 仮名の古典を学ぶ（2）高野切第一種</p> <p>第23回 仮名の古典を学ぶ（3）寸松庵色紙</p> <p>第24回 学内展示作品仕上げ</p>

	第25回 草書を学ぶ 真草千字文
	第26回 隷書を学ぶ
	第27回 漢字仮名交じりの書を学ぶ
	第28回 学内展示作品の鑑賞
	第29回 手紙文・実用書を学ぶ
	第30回 書道史年表中心にまとめ
授業概要	漢字・仮名の変遷成立の理解を深め、基礎的実技能力を養う
テキスト	必要に応じてプリント配布
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	1. 実技を中心とする積み上げ学習なので、講義を欠席しないこと。 2. 書道道具（既存の物で可）を1回目から持参下さい。 3. 用具・用材はさわらび利用。 4. 学内展示作品（修了作品）作成に費用2,500円位必要です。
評価方法	1. 作品の評価 2. 授業の参加度 3. 学内展示作品の作成
参考文献	
備考	

講義科目名称：伝統文化論（10910）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	2	選択
担当教員			
岩原 真代			
開放（教養）			

授業のテーマ及び到達目標	平安時代の生活文化や風俗、習慣を通して『源氏物語』などの文学作品の背景を理解する。現代とは相似点も相違点もある平安貴族のあり方と文学の発想を学ぶ。
授業計画	<p>第1回 伝統文化論導入</p> <p>第2回 桜の文学史</p> <p>第3回 桜の文学史</p> <p>第4回 平安時代の儀礼と儀式文化</p> <p>第5回 平安時代の音楽—雅楽の世界—</p> <p>第6回 平安時代の音楽—雅楽の種類—</p> <p>第7回 平安時代の音楽—神楽歌・催馬楽—</p> <p>第8回 平安時代の音楽—楽器と文学—</p> <p>第9回 平安京と内裏の構造</p> <p>第10回 平安貴族の邸宅と文学</p> <p>第11回 平安貴族の生活信条</p> <p>第12回 平安時代の人生儀礼</p> <p>第13回 伝統文化の変容と継承—茶道について—</p> <p>第14回 茶道の歴史</p> <p>第15回 茶道の文化</p>
授業概要	テキストや配布資料を用いて、『源氏物語』を中心とした平安文学に見られる年中行事や文化、風俗、習慣、住環境、生活文化などから日本の伝統文化の基盤を理解します。また、伝統文化の継承のあり方として、茶道の歴史と文化を学びます。
テキスト	秋山虔・小町谷照彦編『源氏物語図典』、小学館、定価3672円
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	『源氏物語』などの古典文学や資料を読解するためには、平安時代の習俗の知識や感性が必要です。知りたい、という意欲を持って臨んでください。特に平安文学を専攻する方は履修することが望ましいです。
評価方法	授業への積極的な参加の度合い（10%）、レポート（90%）等を以て評価する。
参考文献	山中裕・鈴木一雄編『平安時代の信仰と生活—平安時代の文学と生活—』至文堂 『新編日本古典文学全集 源氏物語①～⑥』小学館 桑田忠親『日本茶道史』河原書店 ほか
備考	

講義科目名称：有職故実（10920）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
集中	1・2	2	選択
担当教員			
鈴木 真弓			
開放（教養）			
授業のテーマ及び到達目標	有職故実とは、かつて公家や武家を実習してきた儀式や行事のありようを追求する学問である。この、有職故実を理解することなしに、公武にかかわる文学や歴史を理解することはできない。本講義では、様々な儀式・行事に伴う、日本の伝統的な装束の実物（男子の束帯・女子の十二単等）を示し、古典に現れる装束を明らかにし、日本人の美意識にせまってみたい。		
授業計画	－		
授業概要			
テキスト	プリントを配布。 （参考書） 有職故実日本の図典—服装と故実—（鈴木敬三：吉川弘文館）		
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	装束を着装することから、時代意識を身を持って体感してください。		
評価方法	レポート		
参考文献			
備考			

講義科目名称：民俗学概説(国) (10930)

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	2	選択
担当教員			
岩鼻 通明			

授業のテーマ及び到達目標	この講義では、日本の山岳信仰をテーマとして取り上げる。まず、民俗学とは、どのような学問であるかを論じた上で、日本の山岳信仰に関する諸問題について、具体的事例を紹介しながら講義を進める。講義に際してはビデオ教材を活用する。 民俗学に関する基礎的知識を習得するとともに、日本の山岳信仰について、深い認識を得ることを目標とする。		
授業計画	第1回	民俗学とは	
	第2回	民俗学の歩み	
	第3回	山岳信仰の歴史	
	第4回	山岳信仰と修行	
	第5回	白山の山岳信仰	
	第6回	立山の山岳信仰	
	第7回	比叡山の山岳信仰	
	第8回	石鎚山の山岳信仰	
	第9回	英彦山の山岳信仰	
	第10回	羽黒山の山岳信仰	
	第11回	月山の山岳信仰	
	第12回	湯殿山の山岳信仰	
	第13回	山岳信仰と女性	
	第14回	山岳信仰と食文化	
	第15回	まとめ	
授業概要	日本民俗学で扱う内容のうち、本講義では宗教および信仰に関わる民俗、その中でも日本に特有といえる山岳信仰について講義を展開する。		
テキスト	特に使用しないが、附属図書館に所蔵されている民俗学関係の図書を参照してほしい。		
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	自己の故郷の年中行事や祭礼などに関心を持ってほしい。基本的な文献としては、文庫本で出ている、柳田国男『遠野物語』や宮本常一『忘れられた日本人』などがあげられる。 板書は、なるべく整然と見やすい大きな文字で書くことにしたい。		
評価方法	講義内容に関連した課題についての文献およびネット検索をふまえたレポート（出典は必ず明示すること）を学期末に提出することで、成績を評価する。		
参考文献	柳田国男『遠野物語』や宮本常一『忘れられた日本人』		
備考			

講義科目名称：書誌学（10940）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	2	選択
担当教員			
北口 己津子			
開放（教養）			

授業のテーマ及び到達目標	図書館司書として図書館史の基礎知識を身に付け、また一般教養として身近な存在である絵本に関して様々な形や素材があることに着目し、書誌学の視点をもって絵本を見ることができる。		
授業計画	第1回	オリエンテーション	
	第2回	図書館のあゆみ	
	第3回	図書館のあゆみ①アメリカ・イギリス	
	第4回	図書館のあゆみ②フランス・ドイツ	
	第5回	図書館のあゆみ③その他の国	
	第6回	図書館のあゆみ④日本戦前篇	
	第7回	図書館のあゆみ⑤日本戦後篇	
	第8回	図書館のあゆみ⑥日本戦後篇	
	第9回	絵本の構造について①形に着目して	
	第10回	絵本の構造について②しかけに着目して	
	第11回	絵本の素材について	
	第12回	様々な絵本①科学絵本	
	第13回	様々な絵本②こどもがはじめて出会う絵本	
	第14回	様々な絵本③文字なし絵本とことばの絵本	
	第15回	まとめ	
授業概要	講義を中心に、具体的な映像や絵本の実物などを紹介し、受講生に関心を持たせる。		
テキスト	プリント配布		
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	積極的に授業に臨んでほしい。		
評価方法	テスト（70%）、授業への参加度（発言・教員への質問等）（30%）		
参考文献			
備考			

講義科目名称：山形の文学（10950）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	2	選択
担当教員			
梅津 保一			
開放（教養）			

授業のテーマ及び到達目標	山形文学の分野は、小説、随筆、詩、短歌、俳句、川柳、児童文学、童謡と多岐にわたる。山形の文学は、豊かな自然、風土、歴史と切り離しては考えられない。資料と解説により、山形県の自然、風土、歴史への関心と理解を深め、豊かな創造力を育む。		
授業計画	第1回	山形県の歴史と文化	
	第2回	歌枕としての最上川	
	第3回	『義経記』に見る最上川	
	第4回	最上川と松尾芭蕉	
	第5回	『日本永代蔵』にみる酒田	
	第6回	大久保利通、正岡子規と最上川	
	第7回	幸田露伴、大橋乙羽、田山花袋と最上川	
	第8回	河東碧梧桐、阿部次郎と最上川	
	第10回	井上ひさし	
	第11回	土門 拳	
	第12回	藤沢周平	
	第13回	山形の児童文学	
	第14回	山形の詩人たち	
	第15回	外国人の描いた山形	
授業概要	『山形の文学』について、各ジャンルの代表的作品を取り上げ講義します。		
テキスト	『やまがた文学の世界』（プリント）		
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	受講生の興味を引くような題材をとりあげながら講義をすすめたい。		
評価方法	講義の感想メモ（毎回）、レポート「歩く、見る、聞く 山形の文学」、読書感想文の成績を総合的に評価する。		
参考文献			
備考			

講義科目名称：東洋思想（10960）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	2	選択
担当教員			
小野 卓也			
開放（教養）			

授業のテーマ及び到達目標	日本は昔から、インドや中国の文化を積極的に取り入れてきました。その結果、私たちの習慣やものの考え方の背景には、知らず知らずのうちにこうした国々の影響が多く残されています。この授業では、私たちの日常生活にひそむインドや中国からの影響を学び、その発想や捉え方の違いを、日本と比較して見ていきます。		
授業計画	第1回	日本語の中のインドの言葉	
	第2回	七福神の成り立ち	
	第3回	カレーライスの歴史	
	第4回	無常について	
	第5回	苦と解脱	
	第6回	善悪の基準	
	第7回	業と来世	
	第8回	世界の始まりと終わり	
	第9回	先祖と神仏	
	第10回	愛と慈悲	
	第11回	心とは何か	
	第12回	身分と差別	
	第13回	議論と論理	
	第14回	仏教と女性	
	第15回	家族のあり方	
授業概要			
テキスト	プリントを配布しますので、穴をあけて綴じられるA4ファイルを用意してください。		
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	みんなが知っているのに、その由来を知らないこと、今の私たちには信じられないようなものの考え方に触れることで、当たり前だと思っていたことを1度見直してみましょう。そうすれば新しいアイデアが浮かんでくるかもしれません。		
評価方法	毎回、授業の終わりに感想を書いてもらい、これを出席点とします。そのほかにレポートを2回書いてもらい、出席点80%、レポート20%で成績を評価します。		
参考文献			
備考			



開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	2	選択
担当教員			
村瀬 桃子			
開放（教養）			

授業のテーマ及び到達目標	<p>1. 現代における子ども・若者の問題や、教育問題について知る。</p> <p>2. 2回の発表を通して、各自の興味のある問題について深く考え、自分の意見を伝える。</p>		
授業計画	第1回	オリエンテーション この講義の内容について、説明する。	
	第2回	貧困問題と教育 「相対的貧困率」をキーワードに、子どもの貧困問題について、現実を知り、どのような対策が必要か考える。	
	第3回	奨学金の問題 主に大学生の奨学金の問題について、当事者として現状を知り、将来の奨学金制度をどうしていくべきか考える。	
	第4回	若者の就職難の問題 現代の若者の就職状況について知る。実際の先輩の声（手記）を読むことで、近い将来の就職活動に備える。	
	第5回	障がいをもつ子どもたちの就労問題 障がいを持つ子どもの就労問題について、現実と課題を知る。	
	第6回	発達障がいの子どものたち 発達障がいとは、どのような特徴があるのかを知り、すべての子どもの学ぶ権利を保障するための手立てを考える。	
	第7～9回	個人発表（新聞記事から気になる話題を発表） 新聞には、日々、教育問題や子ども・若者に関わる記事が掲載されている。新聞を読むことで、現代社会を知り、さらに自分の興味のある記事を掘り下げて、受講者全員の前で発表する（パワーポイント）。	
	第10回	罪を犯した少年たち 少年犯罪は実際のところ、増え続けているのか、凶悪化しているのか。そして罪を犯した少年はどのような矯正教育を受けているのかについて知る。	
	第11回	児童虐待の問題 年々増加しているといわれている児童虐待であるが、虐待された子どもを保護して終わりではない。保護されてからも、長い道のりであることを知る。	
	第12回	幼児期の子ども 待機児童問題など、保育の「質」より「量」に目が向きがちであるが、子どもたちに豊かな保育環境を整えるためには「質」の保証が欠かせない。ある園の保育内容を見ることで、子どもの育ちには、何が必要かを考える。	
	第13回	いじめの問題 毎年のようにいじめによる自殺という痛ましい事件が起こっている。そもそもいじめはなくせるのか。ゼロにできなくても減らすことはできないのか。現場の取り組みを知り、考える。	
	第14～15回	発表（テーマ自由） 授業で取り上げたテーマでも、それ以外でも、教育・子ども・若者の問題に関わることについて、興味のあることを受講者全員の前で発表する（パワーポイント）。	
授業概要	ドキュメンタリー番組等を見ることで、現代の教育問題についてまず現状を知る。さらに興味関心のあるテーマを調べ、パワーポイントを用い2回発表することで、自分の考えを深める。		
テキスト	テキストは使用しない。参考文献等は、その都度紹介する。		
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	できるだけ新しい動きを取り上げたい。授業は考える「きっかけ」。現代の様々な教育問題に対する解決法に明確な「正解」はおそらくない。だからこそ各自で考え、発信できるようにしたい。		
評価方法	毎回の感想（20%）と発表内容（2回分50%）、レポート（30%）で評価する。		
参考文献			
備考			